

三加和町文化財調査報告 第20集

# 豊前街道「腹切坂」

～ 保存整備工事報告書 ～

2004

熊本県玉名郡  
三加和町教育委員会

三加和町文化財調査報告 第20集

# 豊前街道「腹切坂」

～ 保存整備工事報告書 ～

2004

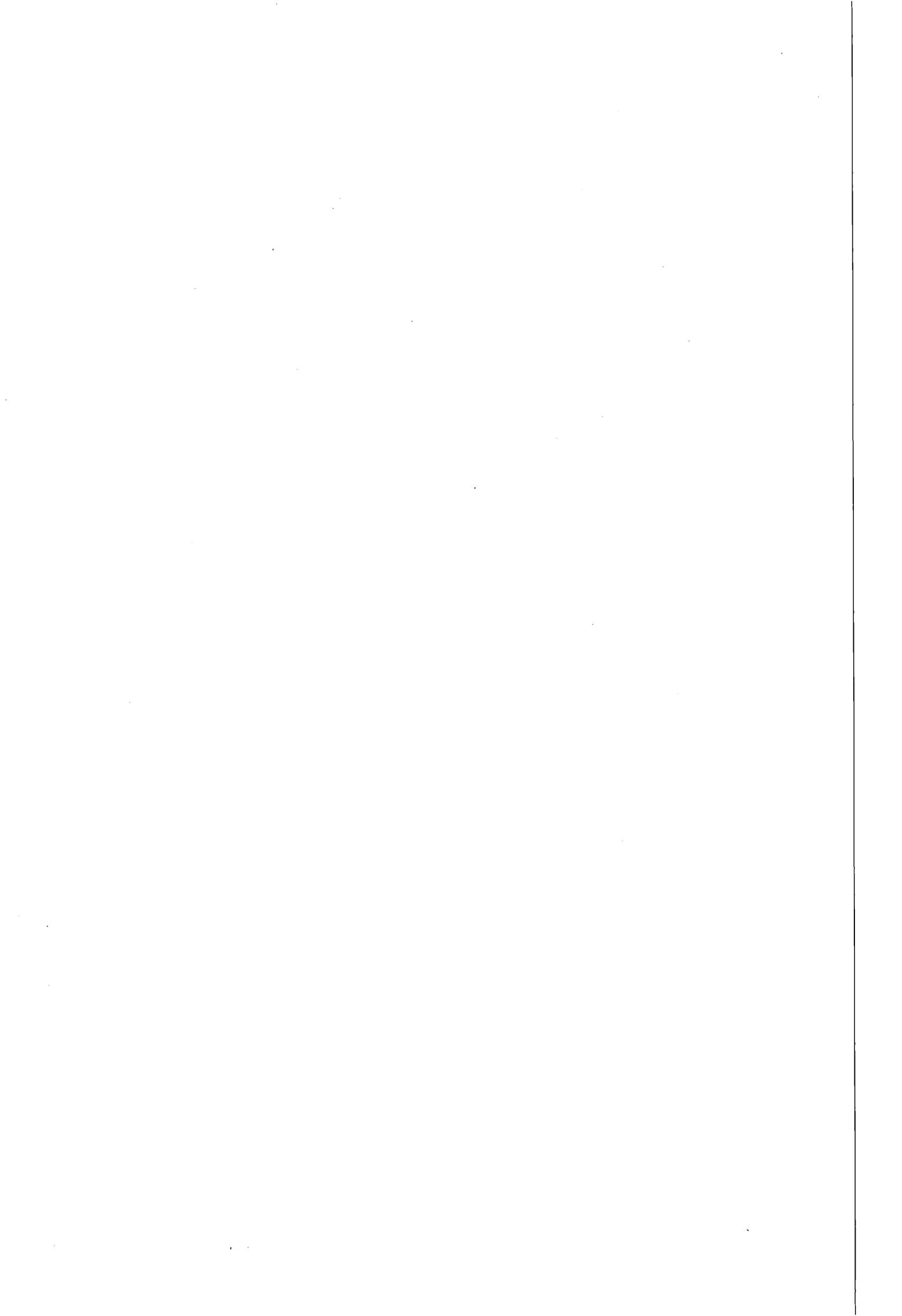
熊本県玉名郡  
三加和町教育委員会



工事着工前 (No.13付近の水みち状況)



竣工状況 (No.9~11付近)



# 序

三加和町は緑豊かな風土にはぐくまれ、古い歴史と文化により栄えてきました。

これまで本町の文化財といえば、その代表が田中城であることに異存はないところです。平成14年3月19日に国史跡に指定されました田中城跡の発掘調査は、昭和61年度から平成13年度まで実施し、その成果に基づき整備を行なってきました。そんな折、平成8年11月1日付け庁保記第24号で、本町の「豊前街道・腹切坂」が歴史の道百選として全国78か所のうちの一つに選定された旨の通知がありました。原則として土道が一定区間良好な状態で残っていること、他の地域との連続性を持っていることなどが選考の理由になったようです。

豊前街道は、熊本市新町の札辻を起点にして小倉に至る当時の主要道のひとつで、本町の南側約5.5kmを通っています。現地は急勾配のうえ、台地上に降った雨水などの水みちとなっており、深いところでは約8mも抉れている状態でしたが、一方ではうっそうとして当時を偲ばせる雰囲気は漂っていました。

町では、選定されたのを機に整備を行い、後世に末永く伝えていくこととして、地形測量・基本計画の策定を行い準備に取り掛かりました。平成12年度には国庫・県の補助がいただけることになり、本格的な整備を開始し、現在4年が経過して今年度ようやく完成の運びとなりました。

今後は、地域住民の憩いの場として、また、文化財に親しめる歴史学習の場として活用していただければと願っています。

最後になりましたが、本事業を進めるにあたり、ご指導いただきました関係諸機関ならびに地元住民の皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

平成16年3月19日

三加和町教育長 井上忠勝

## 例 言

1. 本書は、熊本県玉名郡三加和町大字岩に所在する豊前街道腹切坂の整備報告書である。
2. 本整備工事は、町単独事業として実施した地形測量（平成9年度）・基本計画策定（平成10年度）をもとに、文化庁の歴史の道整備活用推進事業（整備）及び熊本県文化財保存事業により、平成12年度から15年度まで実施した。
3. 整備事業は、文化庁及び熊本県文化課の指導の下に実施した。
4. 本書の写真は、主に(有)東和建設の撮影した工事写真を使用した。
5. 本書の執筆・編集は黒田裕司が担当した。

# 目 次

序  
例 言

第Ⅰ章 序 説 .....	1
第1節 事業の概要 .....	1
第2節 組織 .....	1
第Ⅱ章 豊前街道の環境と歴史 .....	7
第1節 豊前街道の概要 .....	7
第2節 地理的環境 .....	7
第3節 歴史的環境 .....	8
第Ⅲ章 保存整備工事の概要 .....	10
第1節 保存整備に至る経過と実績 .....	10
(1) 年度別保存整備事業実績 .....	10
(2) 年度別保存整備事業支出内訳 .....	11
第2節 平成9年度事業（地形測量） .....	17
第3節 平成10年度事業（基本計画策定） .....	17
第4節 平成12年度事業 .....	18
第5節 平成13年度事業 .....	22
第6節 平成14年度事業 .....	26
第7節 平成15年度事業 .....	31
第Ⅳ章 結 語 .....	37

# 挿 図 目 次

第1図 豊前街道路線図Ⅰ（熊本県内） .....	3～4
第2図 豊前街道路線図Ⅱ（三加和町内） .....	5～6
第3図 現況分析図（平成10年度作成） .....	13～14
第4図 基本計画平面図（平成10年度作成） .....	15～16
第5図 石造り水路 .....	18

第6図	標準断面図	18
第7図	平成12年度雨水排水設備構造図	19～20
第8図	平成12年度事業横断図	21
第9図	平成13年度仮設排水管図	22
第10図	平成13年度雨水排水設備構造図	23～24
第11図	平成13年度標準断面図	25
第12図	平成14年度事業横断図	27
第13図	平成14年度雨水排水設備構造図	28
第14図	平成14年度サイン詳細図Ⅰ（説明板）	29
第15図	平成14年度サイン詳細図Ⅱ（標識柱・道標板）	30
第16図	平成15年度事業横断図	31
第17図	平成15年度雨水排水設備構造図	32
第18図	平成15年度休憩施設構造図	33
第19図	平成15年度木柵詳細図	34
第20図	整備完了測量図	35～36

## 表 目 次

第1表	年度別保存整備事業実績	10
第2表	年度別保存整備事業支出内訳	11

## 写 真 目 次

図版1	(1)NO. 0 地点着工前（平成15年度工事）	41
	(2)NO. 0 地点竣工（平成15年度工事）	41
図版2	(1)NO. 4～6 地点着工前（平成15年度工事）	42
	(2)NO. 4～6 地点竣工（平成15年度工事）	42
図版3	(1)NO. 7～9 地点着工前（平成15年度工事）	43
	(2)NO. 7～9 地点竣工（平成15年度工事）	43
図版4	(1)NO. 9～11地点着工前（平成14年度工事）	44
	(2)NO. 9～11地点竣工（平成14年度工事）	44
図版5	(1)NO. 9～11地点着工前（平成15年度工事）	45
	(2)NO. 9～11地点竣工（平成15年度工事）	45

図版 6	(1)N O. 11～12地点着工前 (平成13年度工事)	46
	(2)N O. 11～12地点竣工 (平成13年度工事)	46
図版 7	(1)N O. 11～12地点着工前 (平成14年度工事)	47
	(2)N O. 11～12地点竣工 (平成14年度工事)	47
図版 8	(1)N O. 13～14地点着工前 (平成13年度工事)	48
	(2)N O. 13～14地点竣工 (平成13年度工事)	48
図版 9	(1)N O. 12～15地点着工前 (平成14年度工事)	49
	(2)N O. 12～15地点竣工 (平成14年度工事)	49
図版10	(1)N O. 15～16地点着工前 (平成13年度工事)	50
	(2)N O. 15～16地点竣工 (平成13年度工事)	50
図版11	(1)N O. 15～17地点着工前 (平成14年度工事)	51
	(2)N O. 15～17地点竣工 (平成14年度工事)	51
図版12	(1)N O. 17～18地点着工前 (平成13年度工事)	52
	(2)N O. 17～18地点竣工 (平成13年度工事)	52
図版13	(1)N O. 17～18地点着工前 (平成14年度工事)	53
	(2)N O. 17～18地点竣工 (平成14年度工事)	53
図版14	(1)N O. 23～21地点着工前 (平成12年度工事)	54
	(2)N O. 23～21地点竣工 (平成12年度工事)	54
図版15	(1)N O. 26～25地点着工前 (平成12年度工事)	55
	(2)N O. 26～25地点竣工 (平成12年度工事)	55
図版16	(1)N O. 28～27地点着工前 (平成12年度工事)	56
	(2)N O. 28～27地点竣工 (平成12年度工事)	56
図版17	(1)説明板 I (平成14年度工事)	57
	(2)説明板 II (平成14年度工事)	57
図版18	(1)標識柱 (平成14年度工事)	58
	(2)道標板 (平成14年度工事)	58
図版19	休憩施設・木柵 (平成15年度工事)	59



完成予想パース

# 第 I 章 序 説

## 第 1 節 事業の概要

平成 8 年 11 月 1 日付け庁保記第 24 号で文化庁文化財保護部記念物課から、車返し坂（山鹿市）から腹切坂（三加和町）が「歴史の道百選」に選定された旨の通知がありました。これは、主に明治時代まで活用された 78 か所の街道・運河が、選考委員会で選ばれたというものでした。選定の基準の、(1)原則として、土道・石畳道・道形等が一定区間良好な状態で残っているもの。(2)他の地域との連続性を持っているものなどの点で選考されたものと思われます。また、今後は、文化庁で行っている「歴史の道整備活用推進事業」などで整備を推進していく予定ということでした。

今回選定された「腹切坂」は、永ノ原台地の端部に作られているため、雨が降ればみずみちとなり深いところでは約 8 m も抉れている状況で、昭和 40 年には迂回路が作られ、町道のまま舗装もされずに現在に至り、通る人もほとんどいませんでした。このまま放っておけば、ますます傷みが激しくなり、最悪の場合は崩壊の恐れもありました。そこで、三加和町では貴重な文化財を良好な状態で後世に残すために、平成 9 年度に地形測量、平成 10 年度に基本設計を策定し、平成 12 年度から国・県の補助を受けて整備に取り掛かり、15 年度に完成しました。

## 第 2 節 組 織

### 組織

事業主体	三加和町教育委員会
事業責任者	高木 瑞穂（教 育 長：～平成 15 年 9 月） 井上 忠勝（ ” ”：平成 15 年 10 月～ ）
事業事務	小山 暁（社会教育課課長：～平成 14 年 3 月） 浦部 豊（ ” ”：平成 14 年 4 月～ ） 鍋島 忠隆（社会教育課主事：～平成 14 年 3 月） （社会教育主事：平成 14 年 4 月～ ）
担当者	黒田 裕司（社会教育課参事：～平成 14 年 3 月） （ ” ” 係長：平成 14 年 4 月～ ）

### 指導・助言及び協力者

本中 眞（文化庁記念物課主任調査官）
磯村 幸男（ ” ” ）
伊藤 正義（ ” ” 調査官）
大田 幸博（熊本県教育庁文化課課長補佐：～平成 13 年 3 月）
前川 清一（ ” ” 主幹：平成 14 年 4 月～ ）
小佐井栄一（ ” ” 主任主事：～平成 13 年 3 月）
丸山 伸治（ ” ” 指導主事：平成 14 年 4 月～ ）

木村 元浩（熊本県教育庁文化課主任学芸員：平成14年4月～）  
黒原 幸也（三加和町文化財保護委員）  
武田 眞道（ ” ）  
福原 貞幸（ ” ）  
三宅 清之（ ” ）  
中尾 健照（ ” ： ～平成13年3月）  
竹下 春夫（ ” ：平成13年4月～）  
野田 勝義（三加和町議会議員： ～平成14年3月）  
田代 寛治（三加和町公民館長）  
中山 正恒（三加和町建設課課長）  
富下 健次（ ” 係長）  
下岩地区のみなさん

地形測量（平成9年度）

株式会社パスコ 熊本支店  
熊本市神水1-24-6 建神ビル

基本計画策定（平成10年度）

株式会社パスコ 熊本支店  
熊本市神水1-24-6 建神ビル

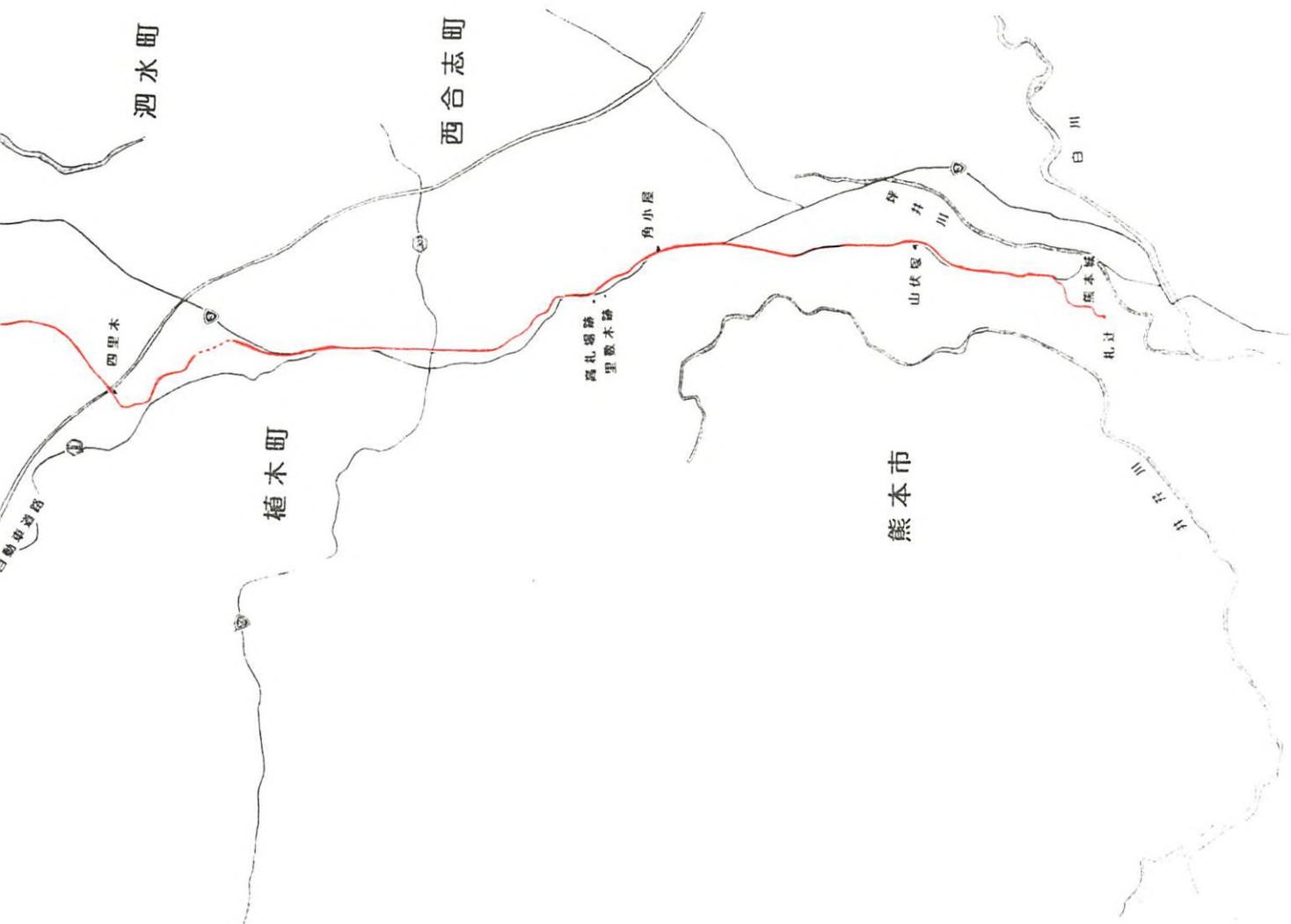
実施設計（平成12～15年度）

株式会社パスコ 熊本支店  
熊本市神水1-24-6 建神ビル

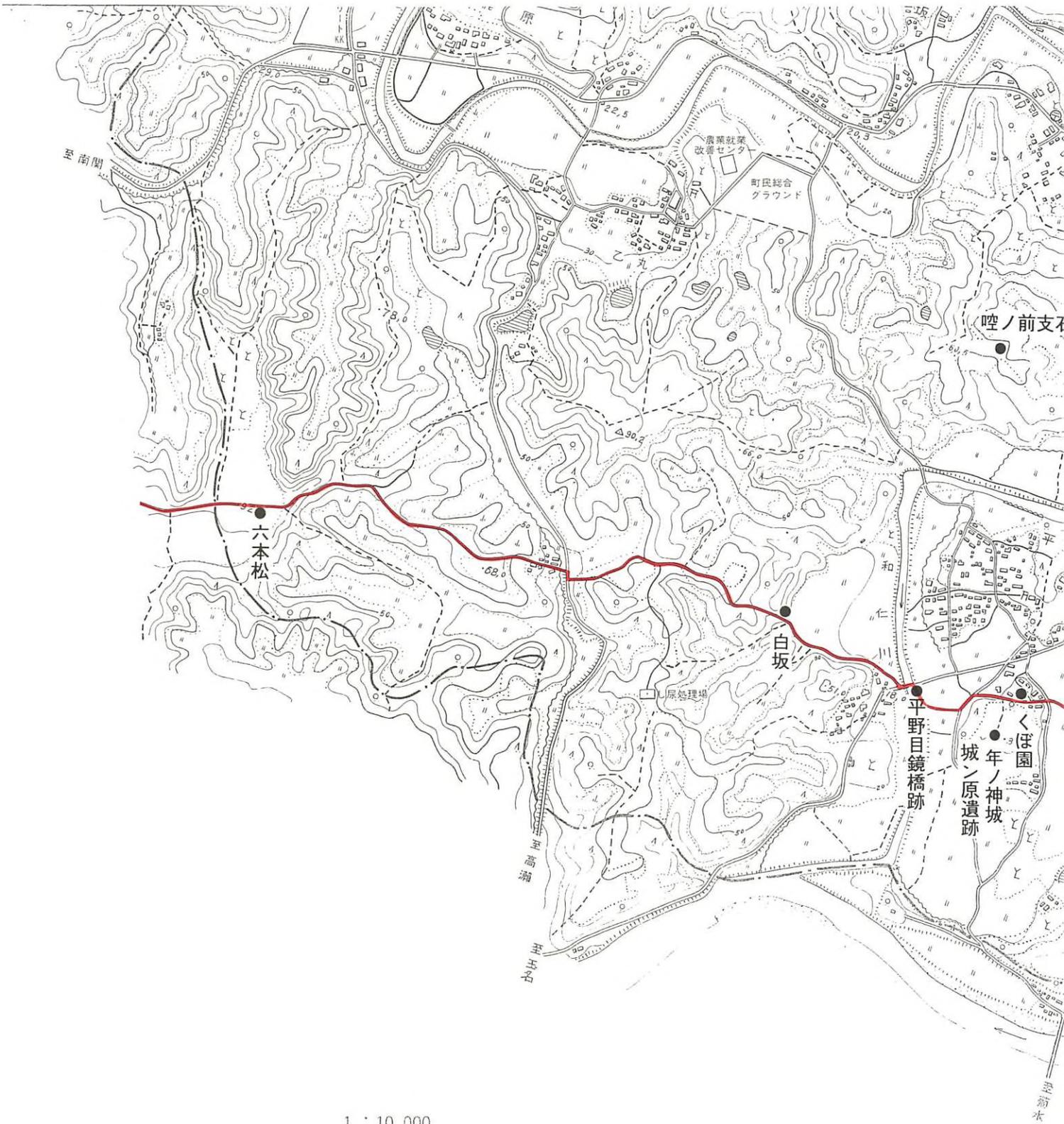
施工業者（平成12～15年度）

有限会社 東和建设  
熊本県玉名郡三加和町岩742-5

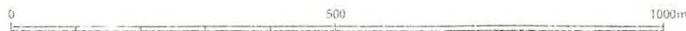




泉図 I (熊本県内)

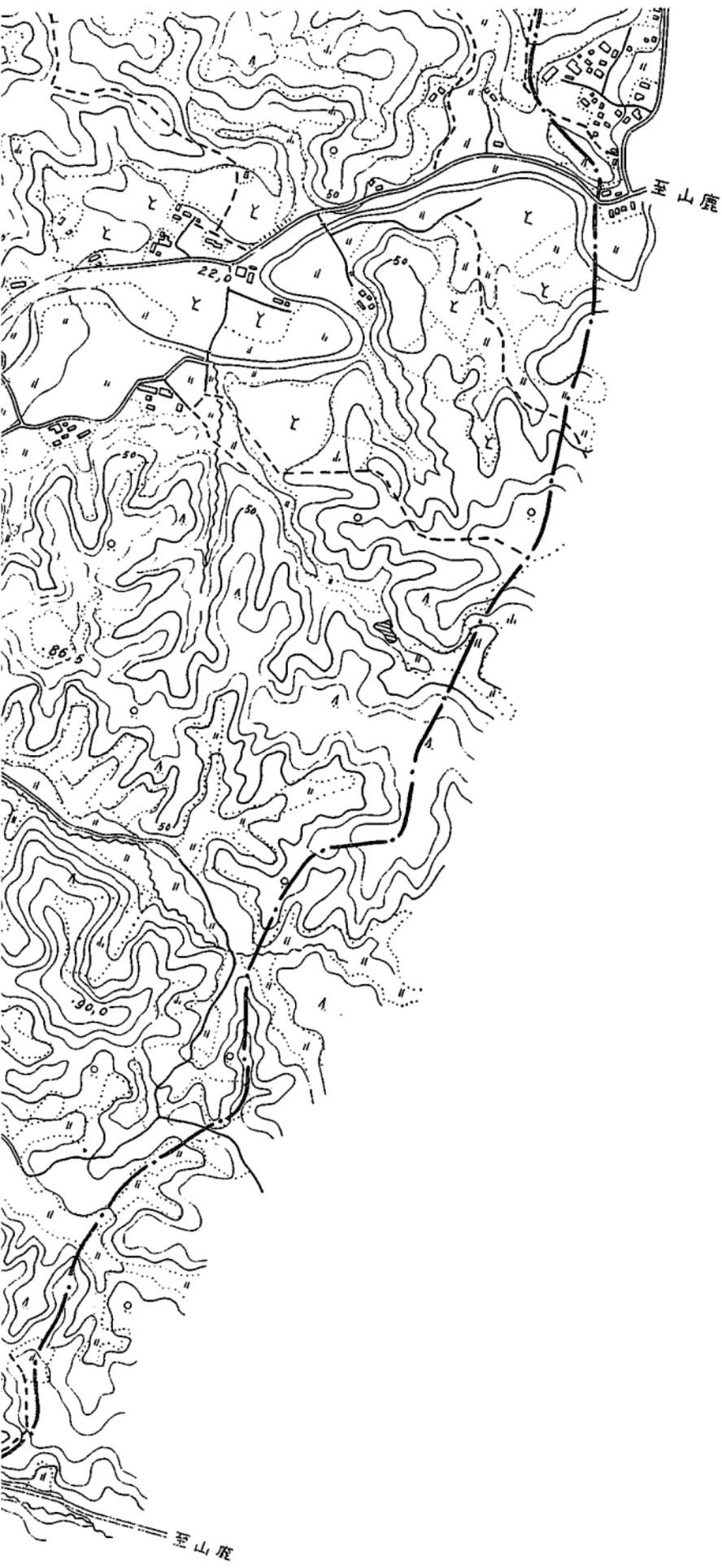


1 : 10,000





第2図 豊前街道路線図Ⅱ（三加和町内）



## 第Ⅱ章 豊前街道の環境と歴史

### 第1節 豊前街道の概要

豊前街道とは、熊本市新町の札辻を起点として小倉に至るもので、「小倉路」とも呼ばれ、参勤交代にも利用されるなど、江戸時代を通して重要な交通路でした。熊本市（新堀・京町・出町・山伏塚・御馬下の角小屋など）、植木町（味取など）、鹿央町（広町など）、山鹿市（下町・地蔵口・八千代座・車返しなど）を通り、三加和町（郡境碑・ハゼ並木・腹切坂・光行寺・八里木跡・ヒジ曲り・窪園・茶店跡・六本松など）を抜け、南関町（肥猪町・御茶屋など）を経て福岡県に入る山沿いの路です。本町の南側約5.5kmを通っています。

豊前街道は、札辻を出るとしばらくは旧国道3号および国道3号とほぼ同じルートを通って北上しますが、植木町に入ると国道3号からズレだし、味取を過ぎると山鹿大橋の手前まで大きく離れ、菊池川を渡って山鹿の市街地へと向います。市街地を抜けると西に向きを変え、国道443号に沿って進みます。鍋田橋を渡ると443号からズレて、山鹿市立博物館の建つ台地上がり、しばらく進むと443号を横切って、永ノ原台地へと続きます。台地の縁は、阿蘇溶結凝灰岩の急峻な斜面のため、台地の上にかかる坂は傾斜が急です。荷車を押し上げるのにもかなり大変だったということで、「車返しの坂」と呼ばれています。台地上は、広範囲で平坦な平場が続いています。ほぼ中央部が旧山鹿郡（山鹿市）と玉名郡（三加和町）の境になり、郡境碑が建っています。台地からの下りも急坂です。ここが、今回整備を行った「腹切坂」と呼ばれるところです。台地上の水が集まって流れ落ちていたため、深いところでは約8mも抉れていました。台地を下りると、しばらく町道寺本—下津原線を通り、八里木跡から再び山道に入ることになります。平野目鏡橋（昭和57年の洪水で流失）を渡るとさらに細い山道になり、本町最後の見せ場である六本松を抜けると肥猪（南関町）に入ります。その後、再び443号を横切って南関町の中心へと向います。中心街から北上し境界石を通して、福岡県に抜けることとなります。

### 第2節 地理的環境

豊前街道が通る永ノ原台地は、福岡県境から鹿北町を経て延びるやまなみに連なり、南を菊池川、東を岩野川、西を岩村川にはさまれています。台地には、多くの谷が入り組んでおり、迫田が形成されています。また、国道443号もこれらの谷のひとつを通っています。台地の端部は、阿蘇溶結凝灰岩の崖面となり切り立っています。そのため台地上にかかる坂は、非常に急傾斜です。「腹切坂」は下り道になり、台地の端を切って造られています。その斜面に露出しているのは非常にもろい阿蘇溶結凝灰岩で、自然に風化してポロポロと崩れ落ちている状況です。また、台地の末端部に当たるため、台地上の雨水が集中して流れこむ状態にあり、路面の浸食を進める原因にもなっています。台地上には平場が広がっており、ほぼ中央部を豊前街道が走っています。台地上は標高約84m、水田とは約60mの比高差があります。

### 第3節 歴史的環境

岩野川に面する阿蘇溶結凝灰岩の崖面には、国史跡である鍋田横穴群があります。総数61基からなり、そのうち12基に装飾が施されており、中でも27号墳の両手を広げた人物像の装飾が有名です。台地上には、やはり装飾古墳として有名な国史跡チブサン古墳・オブサン古墳もあります。鍋田横穴群と街道を挟んだところには、周囲から集められたハゼの実から蠟を作っていた榎方会所がありました。台地を上がると山鹿市立博物館があり、新道から約200m北に行ったところが字一里木と呼ばれており、一里木の根株が残っていたそうです。熊本から七里ということですが、『肥後国誌』には出ていないということです。一里木を過ぎおつぼ坂といわれる緩やかな坂を下って、443号を横切ると永ノ原台地への上りとなります。この上り坂が「車返し」と呼ばれる急坂で『小倉路』には「車帰り坂」とあり、難所の一つだったそうです。坂を上りきると永ノ原台地となりハゼ並木が続いています。以前は延々と植えられていたそうですが、現在は10本ほどしか見られません。しかし、秋になると真赤に紅葉し、その後はたわわに実った実が趣をかもしています。台地のほぼ中央部に「従是西北玉名郡」と刻まれた郡境碑があり、玉名郡へ入ります。この台地一帯は、明治10年(1877)の西南戦争の際の激戦地でもあり、以前は耕作中に多量の鉄砲玉が出土したそうです。また、民家の庭先にあった井戸の縁石には砲弾が当たった痕跡があり、町公民館の中庭に移築しています。台地から麓の寺の本の集落までの下り坂が腹切坂と呼ばれる急坂です。この坂については、慶安4年(1651)の古記録である「御帳之控」(永青文庫蔵)に腹切坂の地名を見ることができ、ほか、『小倉路』には「下り急長し」とあり、参勤交代の道中でも屈指の難所とされたところでした。地名の由来は明らかではありませんが、「人を殺して諸国を逃げ回った西国の武士が、仇と狙う若い武士から逃れられないと悟って、坂の途中で切腹した。」「壇ノ浦で破れた平家の落人が、この地で切腹した。」など、いろいろな言い伝えがありますが、「広い台地(原)の端(切り)にあたる」ことから名付けられたとも考えられます。腹切坂を下ると参勤交代の御茶所となった光行寺があります。門の軒瓦には細川家の九曜紋が用いられ、一段高く作られた藩主休息の間も残っています。また、「妙解院殿前越州大守羽林台雲宗伍公大居士」「真源院殿前肥州大守拾遺回巖宗夢大居士」と、細川忠利・光尚父子の大きな位牌が安置されています。すぐ横には、西南戦争で戦死した官軍兵士133名と軍夫16名を葬った下岩官軍墓地があります。光行寺から約500mは町道により拡幅されていますが、それから先は再び山中に入ります。上ってすぐ、道は右方向に曲ります。鋭角に曲っているためヒジ曲りと呼ばれており、八里木跡でもあります。山中を抜けると平野の集落になります。出口には石畳が敷かれていたということで、地名も石畳です。この先が窪園で、数棟の旅人宿があったといわれます。平成2年に全て姿を消してしまいましたが、最後の一棟は西南戦争の折りに縋帯所とされ、戦傷者の手当てを行ったところから「日本赤十字発祥の地」のひとつと考えられます。南側には、菊池川を臨むように方形の台地が形成されており、古くは弥生時代後期の甕棺が出土し、その後は年ノ神城という中世城が営まれていました。現在でも、台地上の畑から土器片などが表採されます。北側約100m地点には、中原地蔵があります。この地蔵は凝灰岩で造られており、右手に錫杖、左手に宝珠を持っています。像に向かって右側に「為妙祐禪尼廿五回也」、左側に「長祿二年戊寅五月廿五日孝子」と銘文が彫られています。これにより、子供たちが妙祐禪尼の二十五回忌の供養のために造立したことがわかります。集落を抜けると和仁川にかかる平野橋を渡ります。この橋は、現在はコンクリート製ですが『玉名郡村誌』には「目鑑橋 小倉街道ニ属ス、本村ヨリ六町

三十八間、架シテ平野川ノ下流ニアリ、水深一間、広十六間、橋長十六間、巾一間四尺、石造」とあり、二眼の眼鏡橋でした。しかし、昭和57年7月24日の洪水で決壊流失してしまいました。この橋から街道は再び道幅が狭くなり、白坂の上りにかかります。この一帯は、交通量も少なく、うっそうとしていて当時の面影が偲ばれます。坂を上りつめて緩い坂を下ると和仁・菊水線と交差します。新道に沿う小川は小さな滝となって流れ落ちており、この小川に架かっていた丸太橋を渡ろうとして、目の不自由な人が落ちて亡くなったといわれています。ここから再び上りになり、上りきると広い台地となり、肥猪（南関町）へと続きます。この上りきったところを六本松といい、六本の大きな松と茶店が一軒あったそうです。六本の松はすでに無くなり、あとにクスが植えられていましたが、現在では目にすることはできません。



郡 境 碑



ハゼ並木



下岩官軍墓地



光 行 寺



八里木跡とヒジ曲り



平 野



窪 園

## 第Ⅲ章 保存整備工事の概要

### 第1節 保存整備に至る経過と実績

平成8年に「歴史の道百選」に選ばれたのを機に、町費で平成9年度に現地測量、平成10年度に基本計画を策定し、平成12年度から平成15年度までの4年間で歴史の道整備活用推進事業として国および県の補助を受けて整備を実施しました。

#### (1) 年度別保存整備事業実績（第1表）

年度	委託内容	工事内容	事業費
平成9 (1997)	地形測量		町費 1,785,000円
平成10 (1998)	基本計画		町費 1,942,500円
平成12 (2000)	実施設計	雨水排水工	国庫補助 3,000,000円 県費補助 540,000円 町費 2,921,764円 合計 6,461,764円
平成13 (2001)	実施設計	雨水排水工 敷地造成工	国庫補助 13,415,000円 県費補助 1,341,000円 町費 12,747,300円 合計 27,503,300円
平成14 (2002)	実施設計	雨水排水工 舗装工 植栽工 サービス施設工	国庫補助 15,000,000円 県費補助 1,500,000円 町費 14,700,815円 合計 31,200,815円

年度	委託内容	工事内容	事業費	
平成15 (2003)	実施設計	雨水排水工 舗装工 植栽工 造成工 施設設置工	国庫補助 県費補助 町 費 合 計	18,929,000円 1,892,000円 18,406,670円 39,227,670円

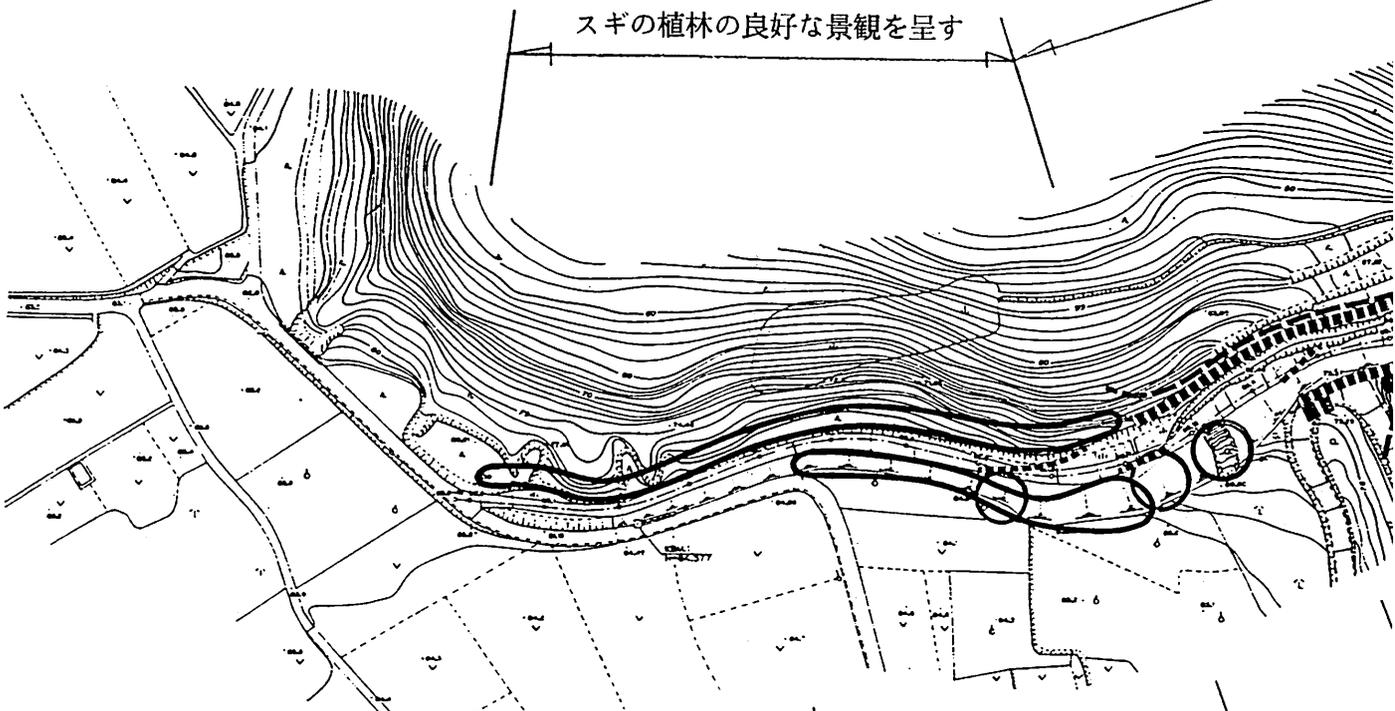
(2) 年度別保存整備事業支出内訳 (第2表)

年度	委託費(円)		工事費(円)		事務費(円)		合計(円)
平成9 (1997)	地形測量	1,785,000					1,785,000
平成10 (1998)	基本計画	1,942,500					1,942,500
平成12 (2000)	実施設計	892,500	排水溝 L=122m	5,544,000	旅費 役務費	24,764 500	
小 計		892,500		5,544,000		25,264	6,461,764
平成13 (2001)	実施設計	2,415,000	排水溝 L=201m 敷地造成 路面浸食防止 1,527m <sup>3</sup>	25,065,600	旅費 役務費	21,380 1,320	
小 計		2,415,000		25,065,600		22,700	27,503,300

年度	委託費(円)		工事費(円)		事務費(円)		合計(円)
平成14 (2002)	実施設計	997,000	排水溝 L=122m 舗装工 =526.6㎡ 植栽 ミヤコザサ 3,298本 コクマザサ 1,960本 サイン工 説明板2基 標識2基 道標板5基 路面浸食防止 750.7㎡	30,187,500	旅費 役務費	16,035 280	
小計		997,00		30,187,500		16,315	31,200,815
平成15 (2003)	実施設計	1,155,000	排水溝 L=333.0m 舗装工 =608㎡ 植栽工 ミヤコザサ 3,922本 コクマザサ 1,163本 休憩施設 報告書 500部	37,988,500	旅費 役務費	83,230 940	
小計		1,155,000		37,988,500		84,170	39,227,670

急崖地となり、法肩上部は  
竹林混じりのスギの  
植林となっている

スギの植林の良好な景観を呈す



道路との間の法面は  
ササが繁茂

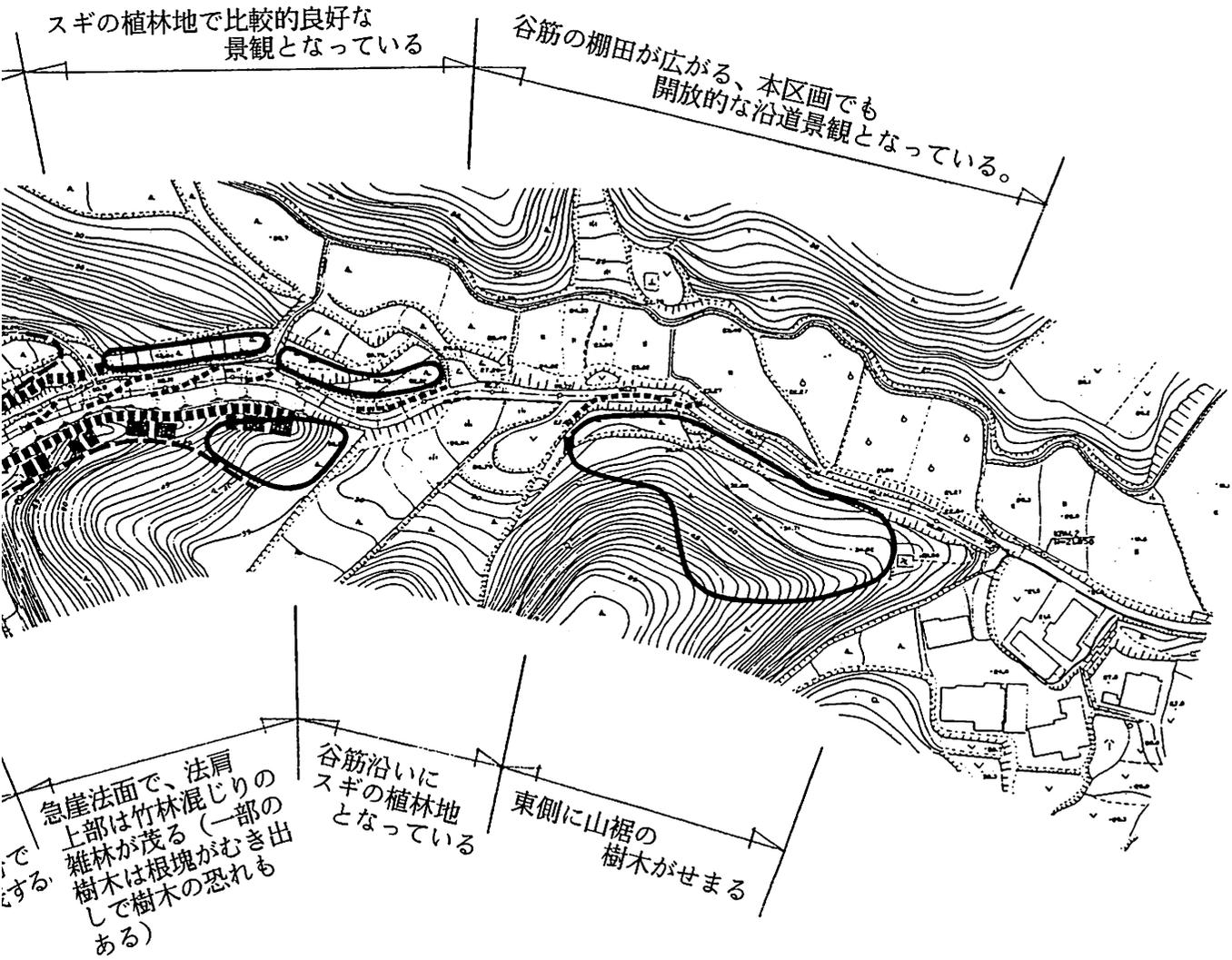
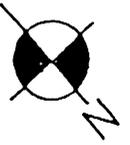
安定した法面で、  
スギの植林が並木を形成する。

荒廃した  
法面部  
竹林が繁

0 50 100

1 : :





- みず道
- 浸食法面
- 法肩の樹木
- (特に倒木危険箇所)
- スギを中心とした樹林地
- 竹林混じりの樹林地

第3図 現況分析図（平成10年度作成）

ゴロタ石埋込み (No.8~20) L=

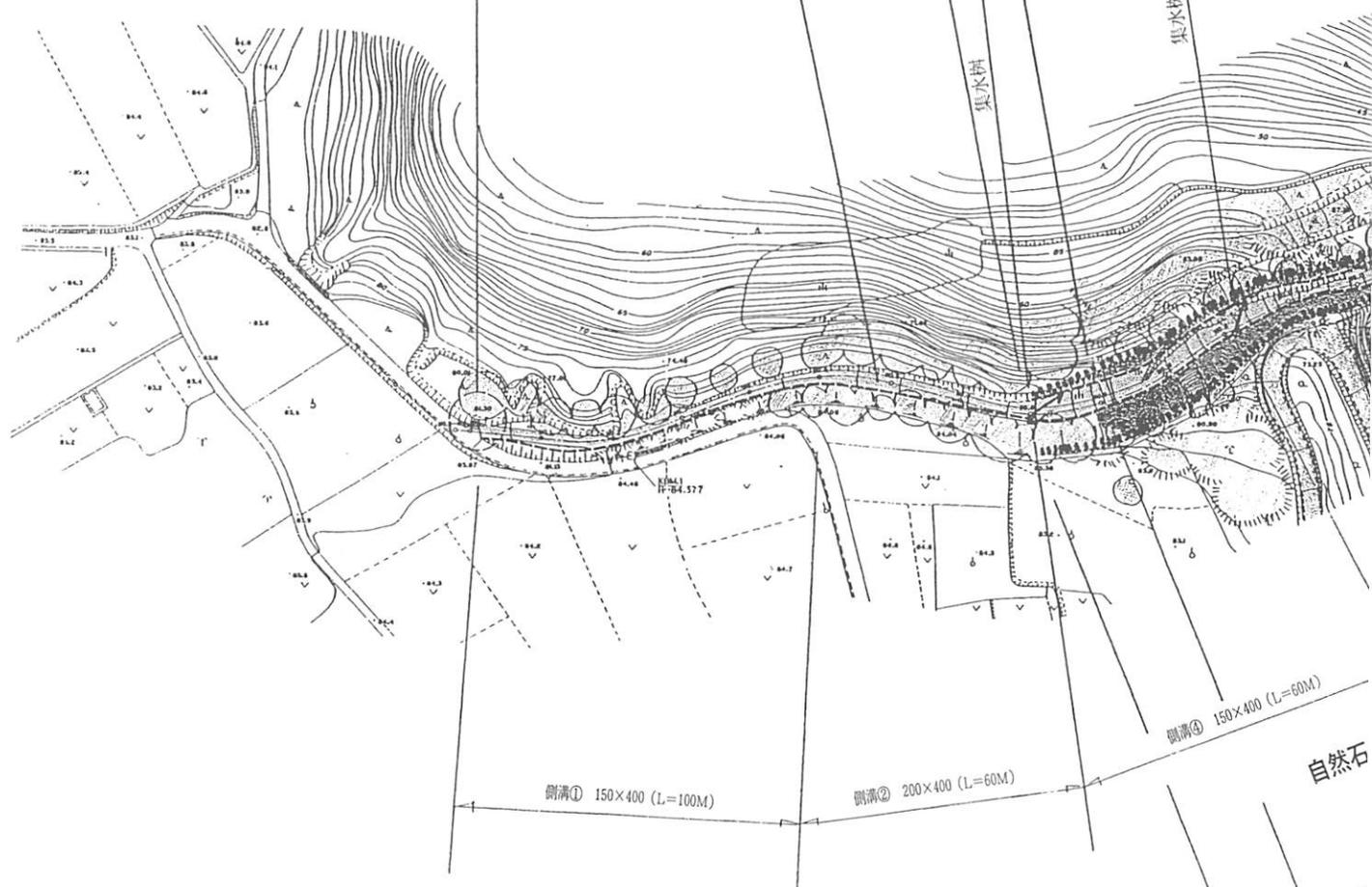
特殊植栽ネット工 (郷土種子) L=170m

モルタル吹付工 (厚10cm) L=120m

自然石側溝 (W=400)

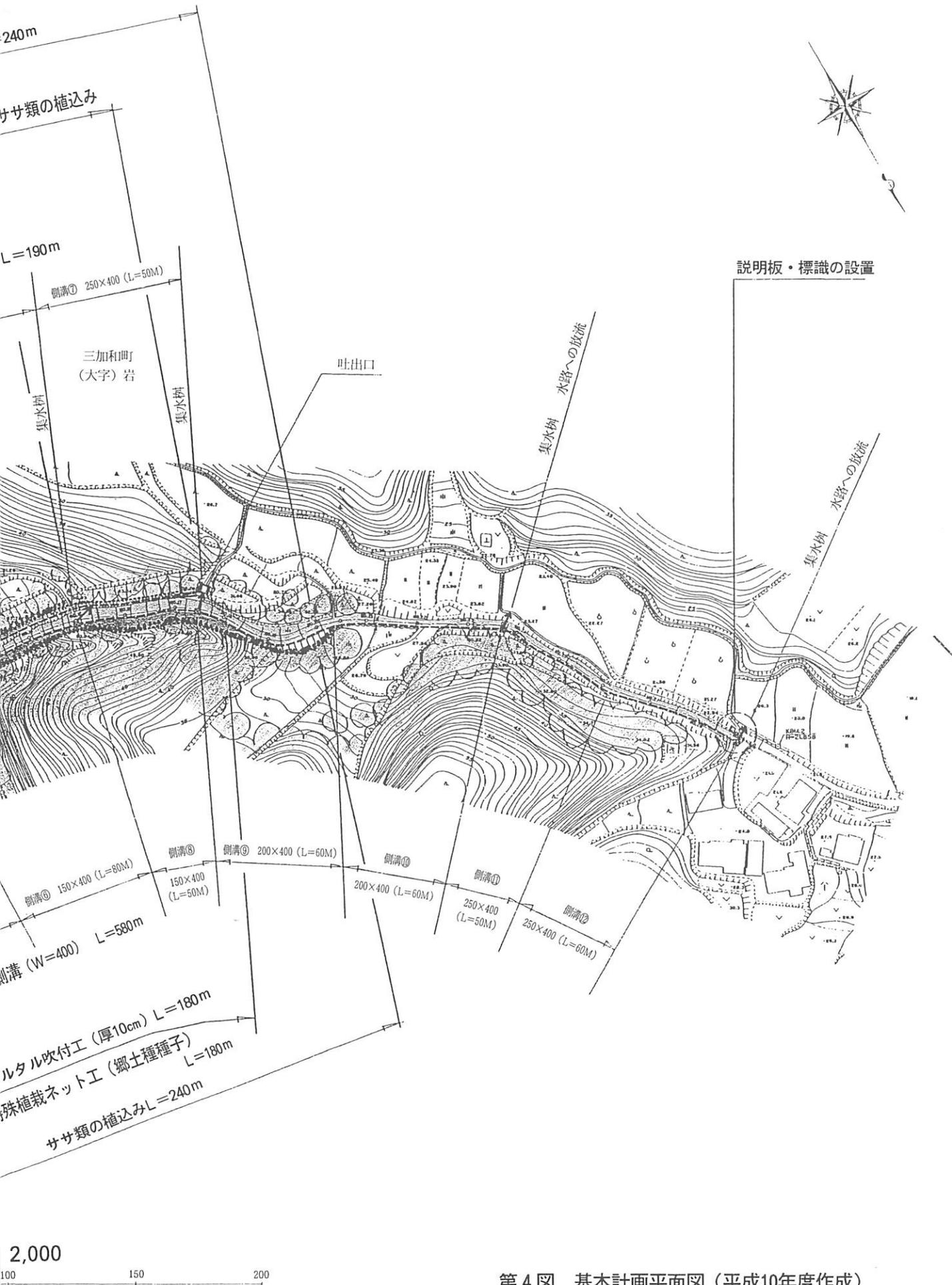
透水性セメント固化舗装 S=2,000m<sup>2</sup>

説明板・標識の設置



S = 1





第4図 基本計画平面図 (平成10年度作成)

## 第2節 平成9年度事業（地形測量）

今後、保存整備していくための基礎資料とするため、空中写真測量および縦横断測量等により、地形図を作成することにし、業者選定は指名競争入札で行い、株式会社パスコが落札しました。

撮影は対空標識を設置し、この成果を基に図化を行ってもらいましたが、必要に応じて判読困難な箇所などについては補備測量を行い、原則として道路中央より左右50mの範囲としました。成果品として、航空写真のアルバム製本（S=1/8000カラー）・撮影評定図（S=1/25,000）・撮影精度管理表、地形図原図（1/1000）・地形図陽画焼（1/1000）、縦断図原図・横断図原図・縦横断図陽画焼、イメージ図などが納品されました。工期は、平成9年12月23日から平成10年3月13日まででした。

## 第3節 平成10年度事業（基本計画策定）

今年度は歴史考証に基づいた保存整備を行うことを目的とし、施工手法の検討を中心にするほか、整備の目的や方法、全体計画について策定することにしました。(1)現況把握、(2)敷地分析、(3)計画内容の検討把握、(4)基本計画図の作成、(5)概算工事費の算出、(6)基本計画説明書の作成、(7)鳥瞰図及び透視図の作成などを主な業務項目として指名競争入札にかけ、株式会社パスコが落札しました。工期は、平成10年12月28日から平成11年3月19日まででした。

“地域財産としての豊前街道を後世に残し伝えていく”ことを整備の目標とし、(1)街道環境の復元を目指す、(2)荒廃化への対応を図る、(3)利用に資する整備を図ることの三点を方針と決めました。また、整備のポイントとして(1)街道敷きの舗装、(2)雨天出水時の水みちとなってえぐられた箇所の復旧及び将来対策、(3)街道両側の法面保護及び景観処理、(4)街道周辺における案内板等の整備、があげられました。特に雨天出水時にできた浸食谷は、深いところでは約8mにも達しており危険を伴うため埋め戻しを行って、周辺からの雨水流水を防ぎ、地下浸透水の処理を含めた排水処理が必要となります。さらに、両側の法面は浸食作用により、部分的には法肩の樹木の倒木や土砂の崩落の危険性が極めて高い箇所があり、安全対策が必要です。

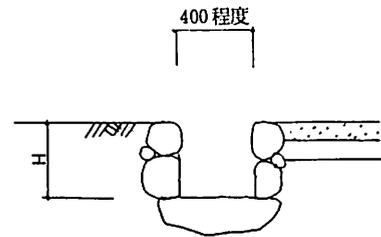
これらのことを考慮して、以下のような整備計画案が提案されました。

(1)の舗装については、あくまで“豊前街道当時の街道敷きである「土の路面」の再現”を目指し、仕上がりイメージとして「自然景観に調和する土を基調としたソフトな舗装」にする。路面舗装については、現土締固め、土壌改良材（固化材）混入の土舗装、石材系舗装などが考えられるが、比較すると土壌改良材混入の土舗装が最適と思われる。また、路面排水はできるだけ透水性舗装を用い、法尻部に側溝を設置し、集水を図る。側溝は景観調和を考慮して自然石を用いる。

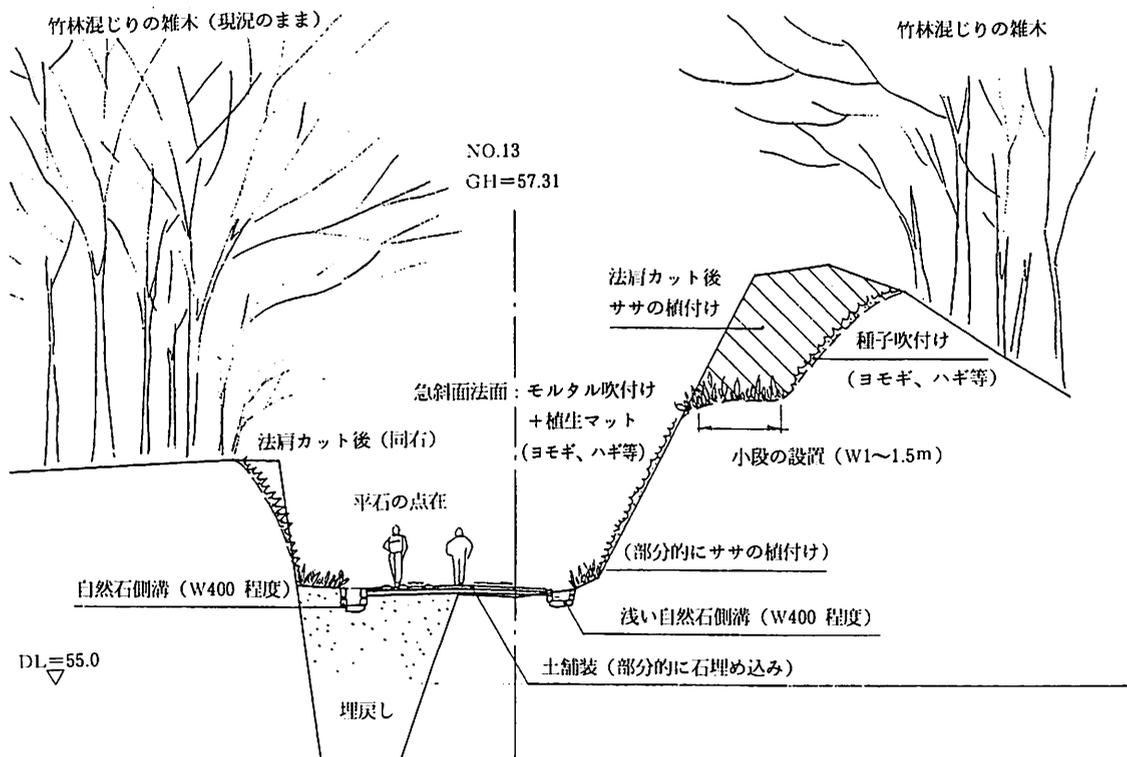
(3)の法面保護は、急斜面の法面が多く、地質的に水の浸食に弱い軽石混じりの火山灰土で構成されているため、全般的に浸食・風化による崩落の危険性がある。そのため“災害防止及び歩行者の安全確保のための法面処置”が必要だが、歴史的あるいは自然景観との調和を図った景観整備がのぞまれ、歴史性も考慮した適切な緑化を図っていく。具体的な保護工法として、安全勾配を確保し、法肩での周辺雨水の流入処理を行う。全体的に急斜面のため、植生工による法面基盤の保護は困難なので、景観面を考慮して、緑化被覆を図る。そのためモルタル吹き付けを行い、表面被覆には有機基材混入の植生マットを、法尻や法肩にはササ類の植込み等を行う。

(4)の案内板等の整備は、豊前街道に関する説明と標識を今回整備箇所の起点部と終点部の二ヶ所に、また、本整備地までのアプローチのための誘導サインとしての道標板を国道443号から数ヶ所設置する。デザインは、これまで熊本県内の整備で設置されているものと同様にする。

以上の各整備項目別に検討が加えられ、第4図のような全体整備計画が完成しました。また、それと併せて1億円を超える概算工事費も算出されました。



第5図 石造り水路

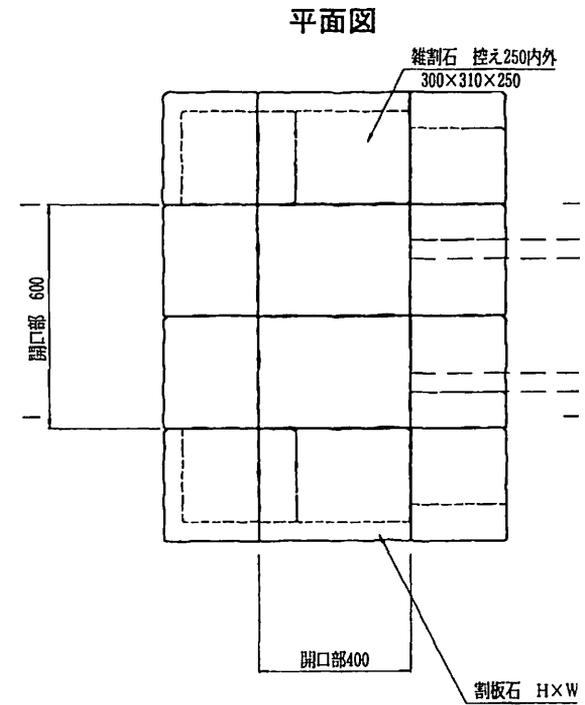
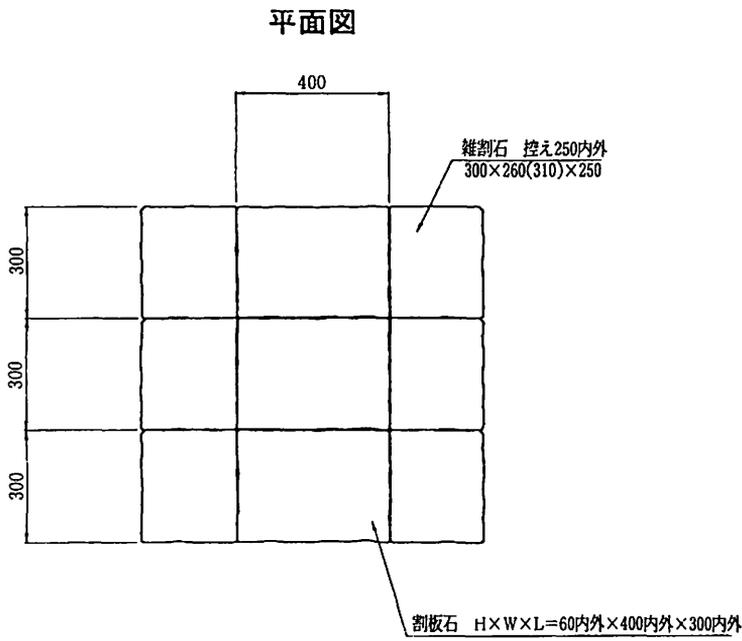
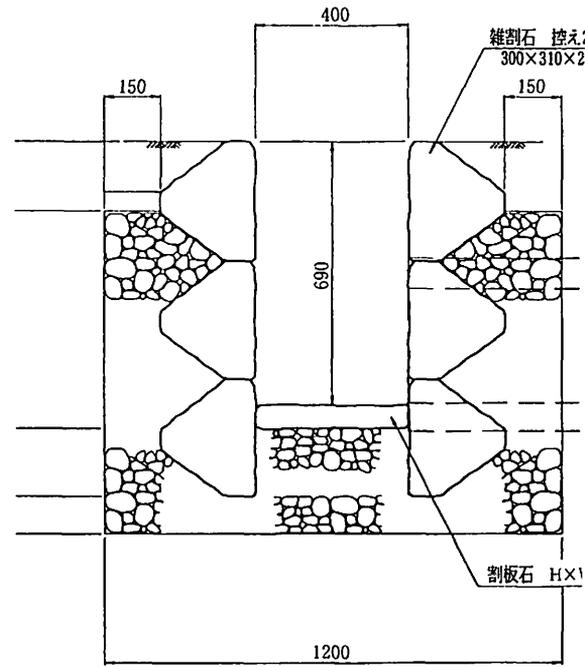
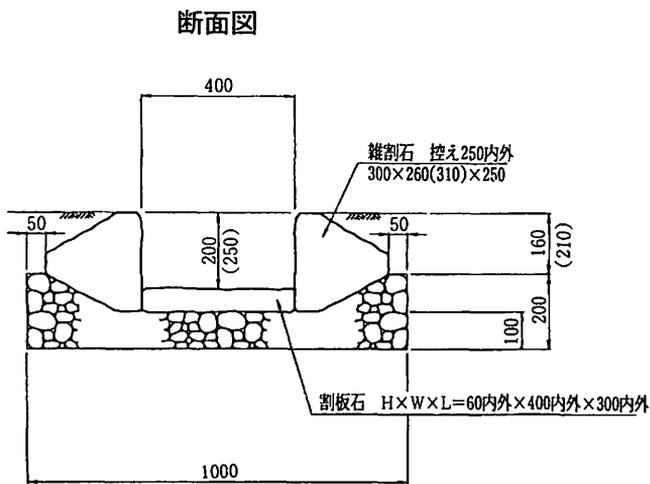


第6図 標準断面図

#### 第4節 平成12年度事業

今年度から国庫・県費の補助が付いたため、整備を開始しました。当初は、今年度に全体の実施計画を策定し、来年度から工事に取り掛かるよう計画をしていましたが、実施計画を作成した箇所については同年度内に工事を完了しなければならない旨指示があったため、計画変更を余儀なくされました。

そこで、まず整備予定地の終点部から約120m区間に排水溝を設置することにし、実施設計を依頼することにしました。平成10年度に株式会社パスコに基本計画を策定してもらっていたため、流れから同じ業者の方がよからうということで、平成12年11月21日から平成13年1月15日までの工期で依頼しました。

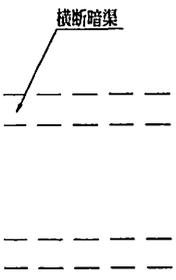


第7図 平成12年度雨水排水設

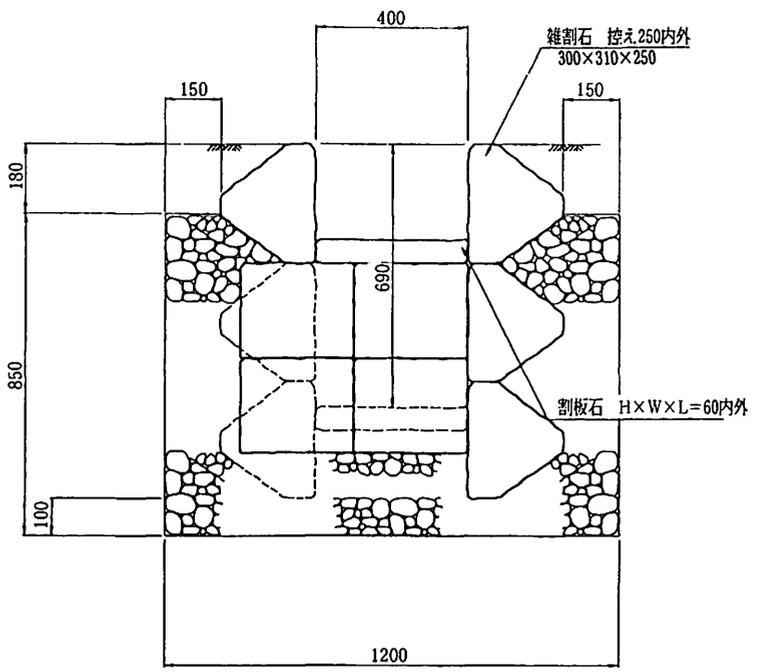
2-2 断面図

10内外

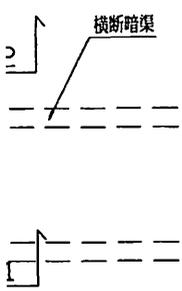
]



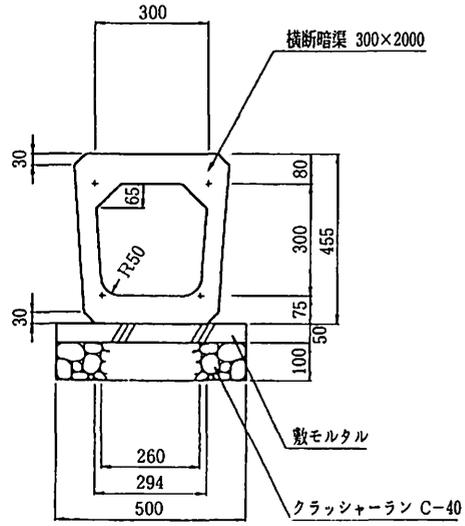
×L=60内外×400内外×300内外



横断暗渠 300

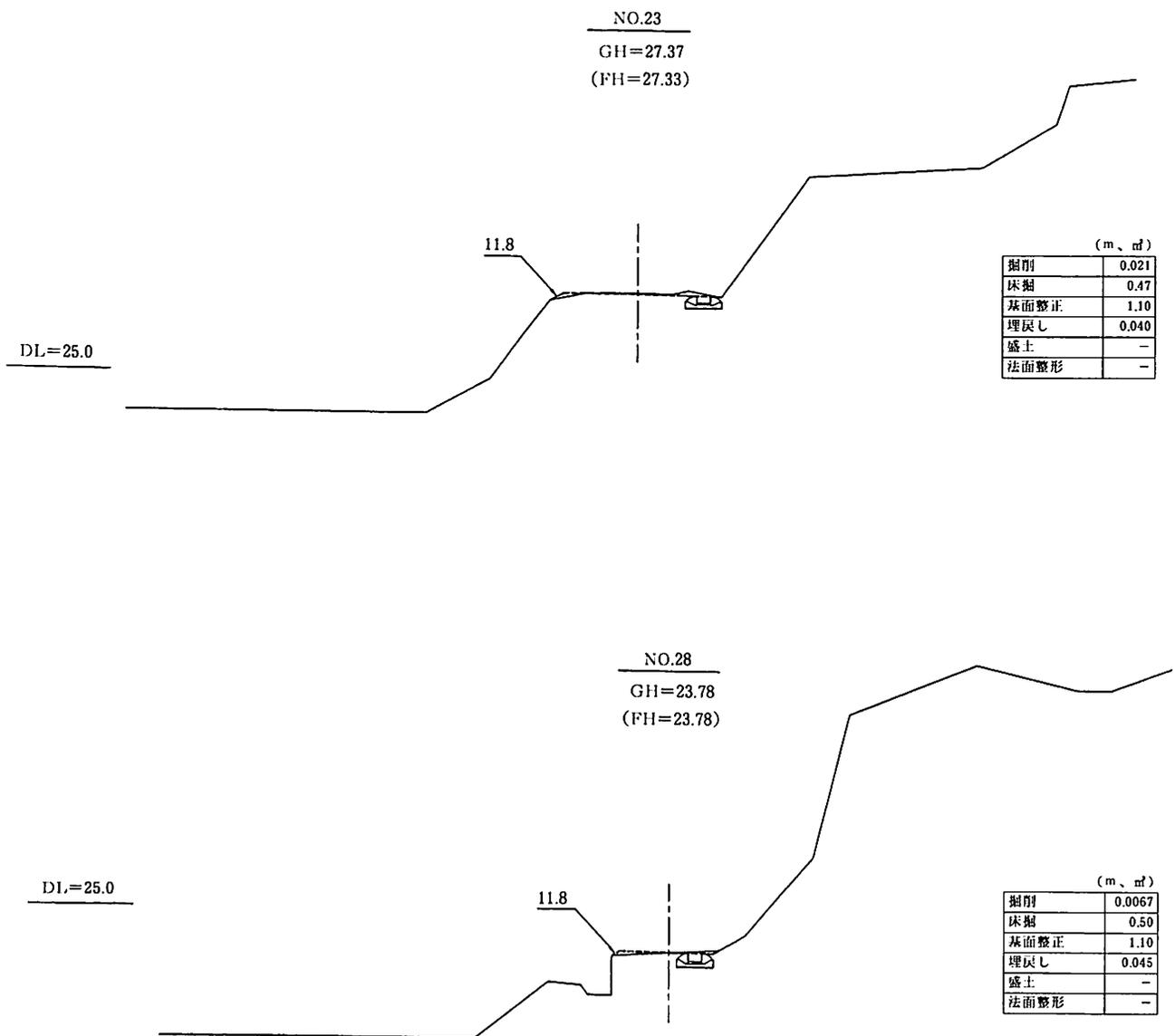


×L=60内外×400内外×300内外



舗構造図

工事に入る前に、まず発掘調査を行い、下部の遺構確認を行うことにしました。その結果、石敷きなどの痕跡は確認できず、自然のままであることがわかりました。ただし、No.20～22区間の約40mだけは谷部にあたるため、盛土により形成されていました。今回は、No.22～No.28+18の区間に石造り排水溝を設置することにしました。地元近くの灰石（阿蘇溶結凝灰岩）を使用して、幅40cm、深さ20～25cmで、底に割板石を敷いた排水溝にしましたが、コンクリートの使用許可が下りなかったため、目地に黒く色付けしたシックイを用いて間を埋め、補強・水漏れ対策としました。また、二ヶ所に横断暗渠を設けて、山側の流水を排水溝で受けて、反対側の水田地帯に排水することにしてあります。道の幅員については、現状の幅員を維持しながら、自然な形での整備を目指すため、排水溝の設置は山斜面の法尻にあわせる形で施工しました。



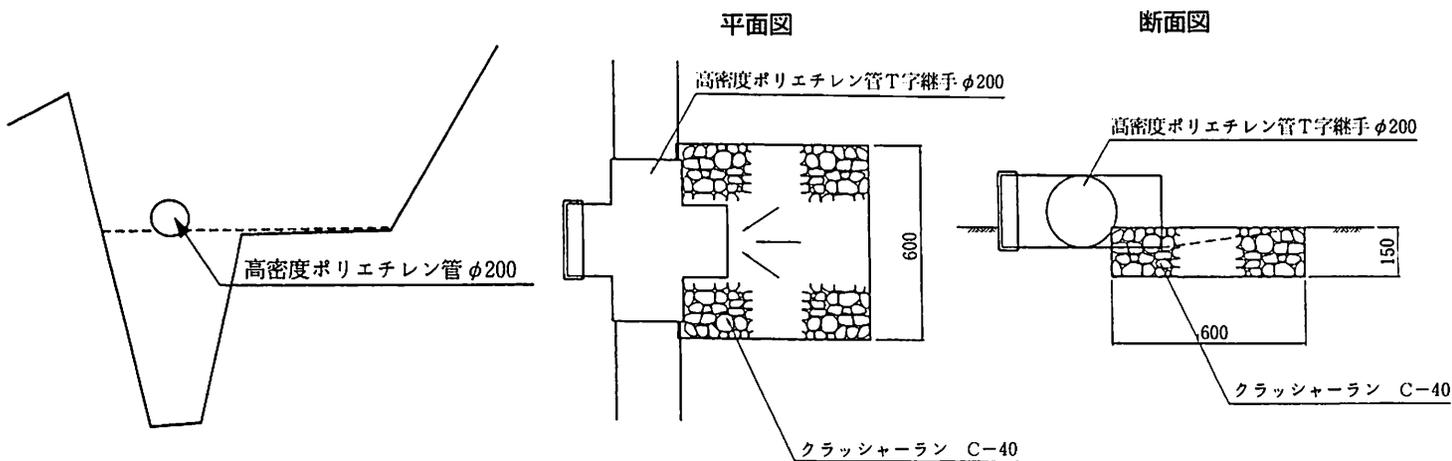
第 8 図 平成12年度事業横断面図

## 第5節 平成13年度事業

今年度工事の最大の難関は、水みちとなって抉られている約8mにもおよぶ窪みを、どのような方法で埋め戻すかということでした。長年にわたり、台地上に降った雨水などの流路となっていたため、このような大きな抉れとなっていたことは間違いなく、埋め方次第では、再びこのような状態になってしまうのではと心配されました。また、作業を行う際の安全性も考慮しなければなりません。結局、深さ2mになるまでは、バックホウによる投入のみで敷均し、締固めは行わず、2m以上については、人力による敷均しとタンパによる締固めを行うものとし、仮設排水管を埋設して様子を見ることにしました。

排水溝は、急勾配であること、豪雨時に台地上に降った雨水が集中してくることなどを考慮して昨年並みかやや大きめのものを計画していましたが、県文化課の指導で幅30cm、深さ10~15cmと一回り小さい作りになりました。材料は、昨年度と同様、阿蘇溶結凝灰岩を使用しています。さらに、急勾配での設置となるため、布設した排水溝が自重や周囲からの土圧の影響、豪雨時の地中の湧水などで下方へずれることが想定され、それを防止するために、4m毎に松杭を設置して排水溝を固定しました。さらに豪雨時の地中の湧水が路盤内または路床を通過することによる、路盤や路床の浸食などを防止するために、路盤の下面に土木シート（不織布）を敷いています。また、基本的には片側だけに排水溝を設置することにしていたのですが、道幅が広がるNo.8~No.17+10.0の区間は、両側の斜面からの雨水を円滑に流下させるために、道の両側に排水溝を設置することにしました。

今年度、浸食溝を埋め戻すに際し、現況路面を保護するためにグリ石などを敷き詰めましたが、来年度からの工事を考え、除去せずそのまま置いておくことにしましたので、団粒化剤を散布して路面の浸食を防止する措置をとりました。

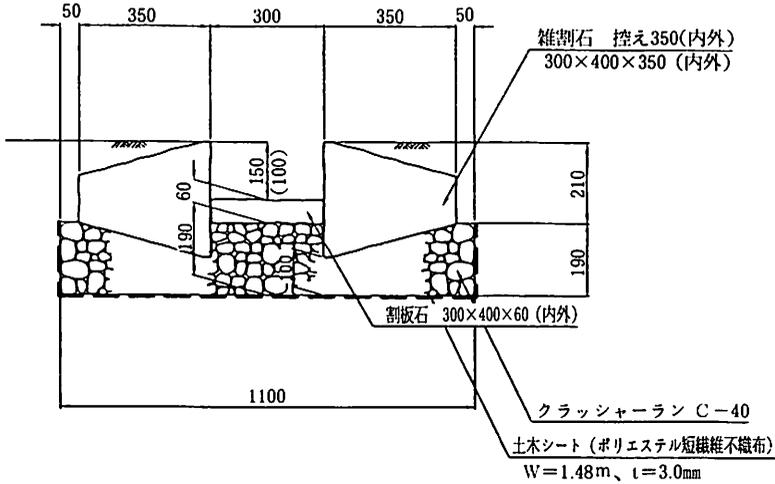


第9図 平成13年度仮設排水管図

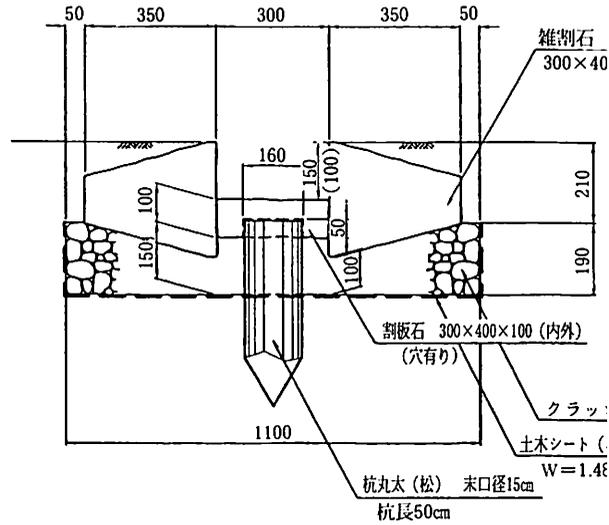
# 石造り側溝 (300×150、300×100)

※ ( ) 内数字は、300×100の寸法

A-A'断面図



B-B'断面図



※石造り側溝、接続樹の目地には、しっくいまたは同等品以上の既製建材を使用する。

〈参考〉

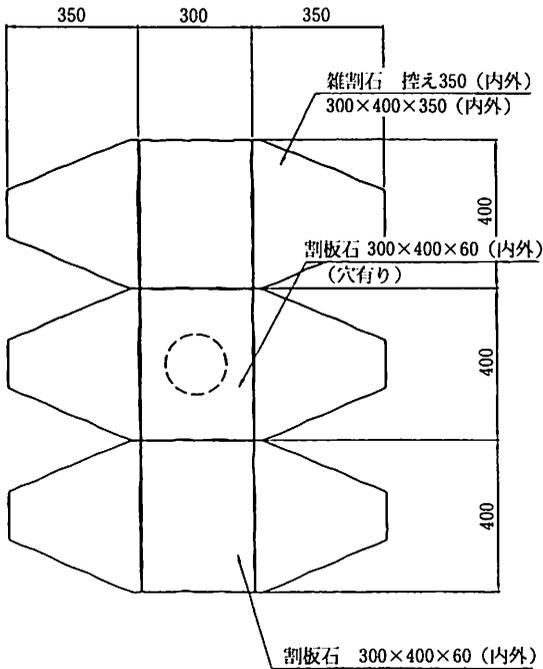
しっくい調合：消石灰：砂＝1：0.2（容積比）

つのみた＝1.0kg（消石灰20kgに付）

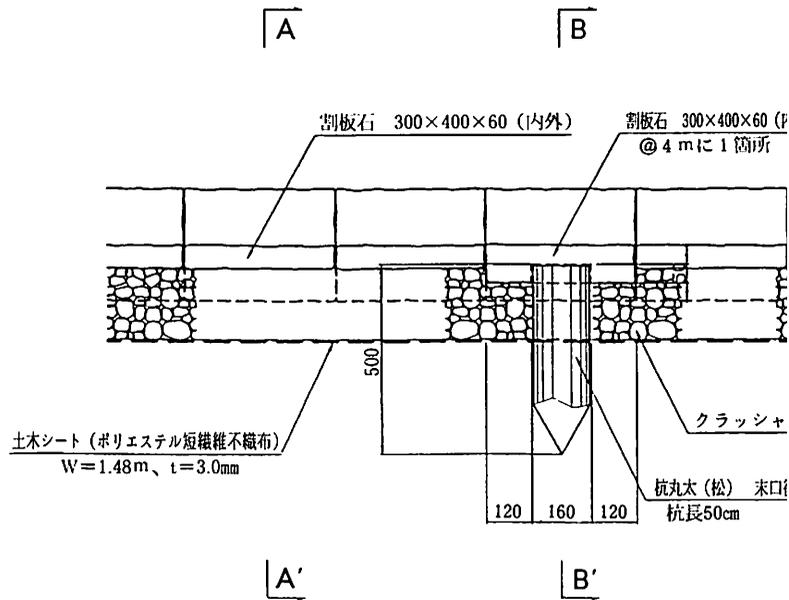
白毛すさ＝0.9kg（ ” ” ）

以上に、灰量を適量混ぜ、石材の色彩との調整を行う。

平面図

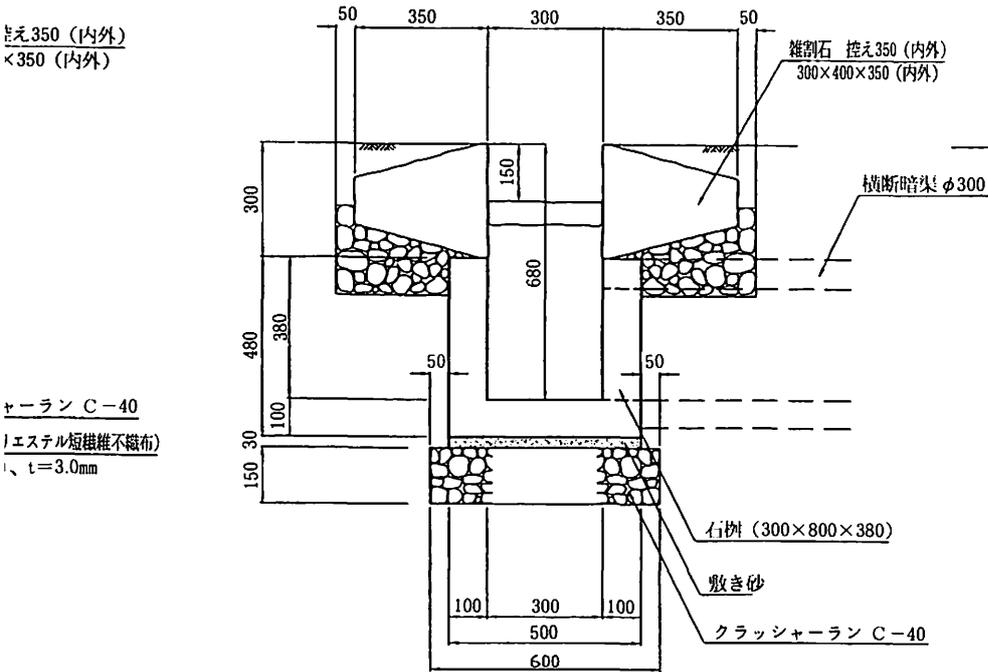


側面図



# 接続柵

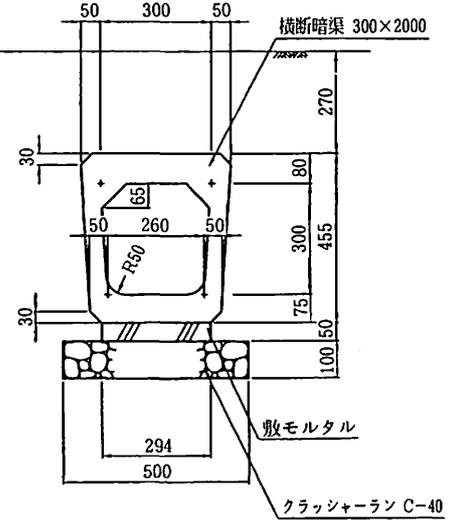
## 断面図



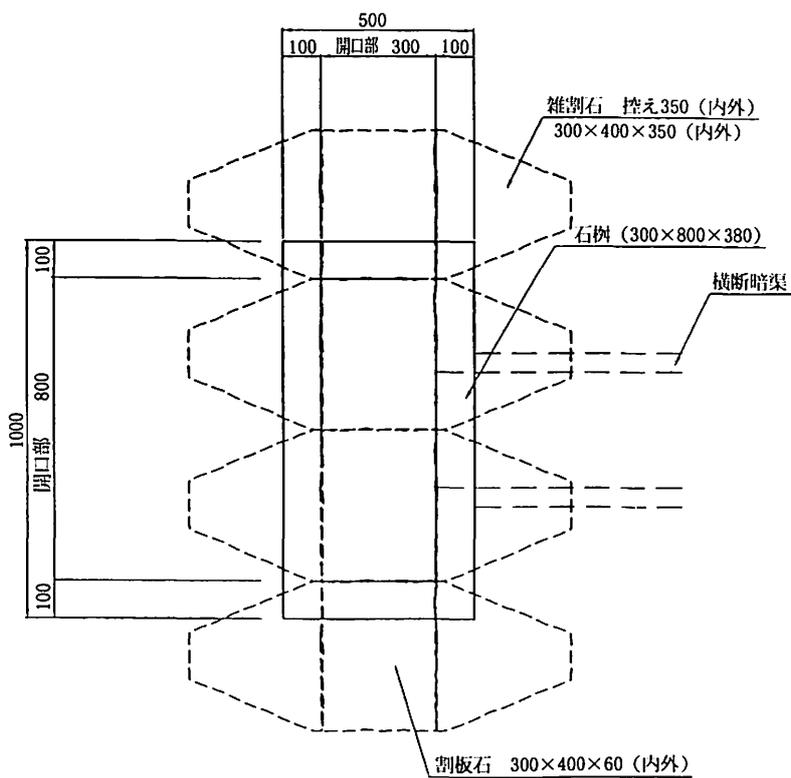
控え350 (内外)  
×350 (内外)

クラッシャーラン C-40  
ポリエステル短繊維不織布  
t=3.0mm

## 横断暗渠300



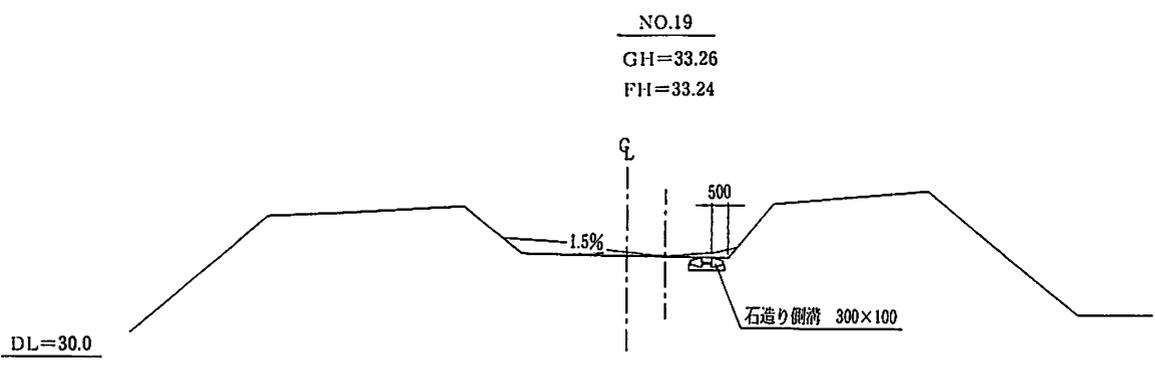
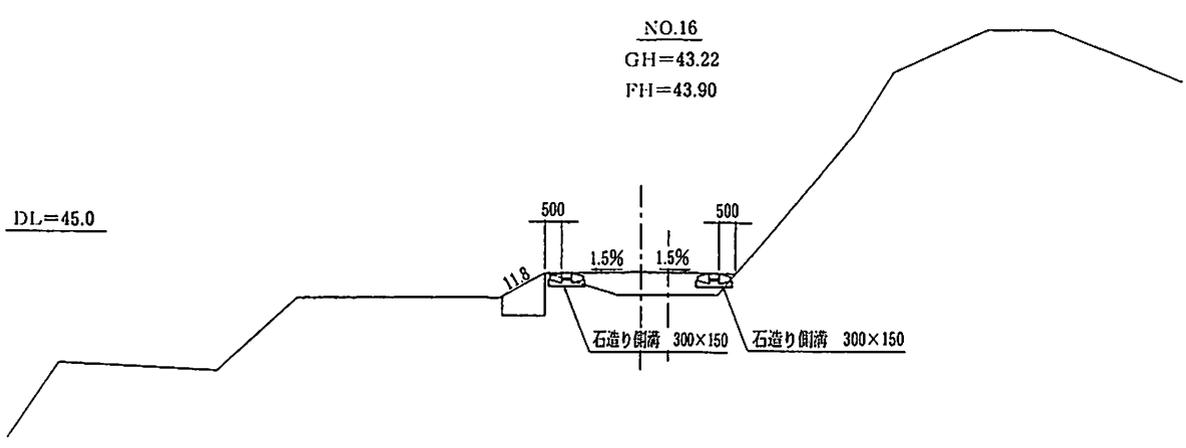
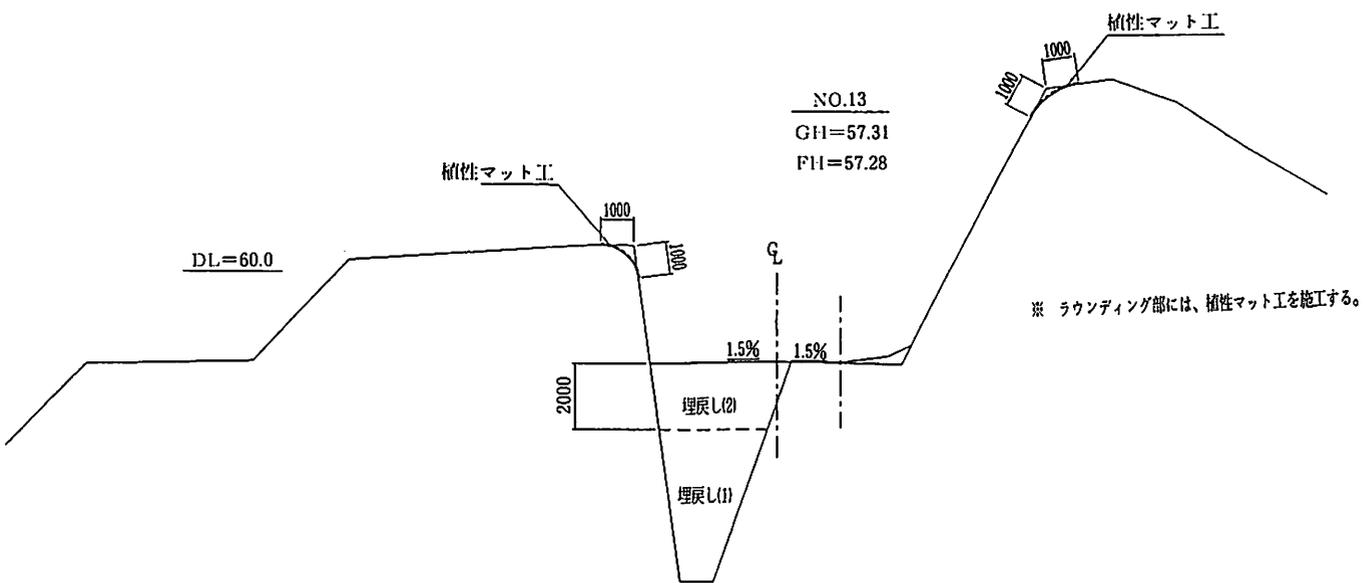
## 平面図



開口部 (穴有り)

クラッシャーラン C-40

t=3.0mm



第11図 平成13年度標準断面図

## 第6節 平成14年度事業

本年度当初の計画では、法面保護を主に実施する予定でしたが、文化庁から法面についてはもう少し現状のままで様子を見るようにと指示がありましたので、工事内容の変更を検討して排水溝の設置、路面舗装、植栽、サイン工を行うことにしました。

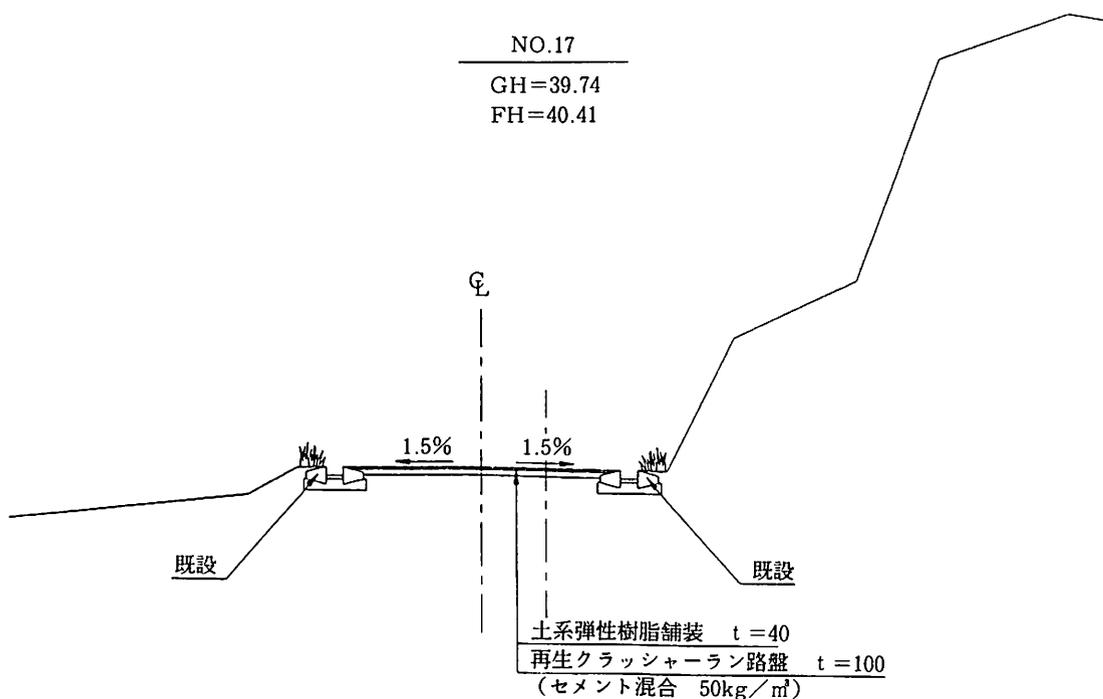
排水溝については昨年度と同様、幅30cm、深さ10～15cmの阿蘇溶結凝灰岩製で4m毎に松杭を設置して固定しています。継目も色をつけたシックイで、補強・水漏れ防止を行っています。また昨年度埋め戻した、水みちとなって深く抉れていた箇所の一部にも排水溝を設置しました。さらに、排水溝周辺及び道路断面全体をより自然な形態にするため植栽することにしました。現地は、ヒノキ・スギ・タケがほとんどを占め、その樹林から法面に沿って下りた林床にはシノダケ類・ササ類・シダ類・コケ類が繁殖しており、また、シャガ・フキ・ヤブコウジなども自生しています。計画地の中間部は、ほとんど日の当たらない区域があり、ササ類・シダ類・コケ類など丈の低い草木類・地衣類しか見られません。現地は山林部にあり約60mの高低差がある坂道のため、植栽計画は耐陰性に優れたものの中かでも野趣に富んでいるものを選定するのが適当だと思われました。そこで、候補植物として現地に近似種があるもの ミヤコザサ・クマザサ・ヤブコウジ・ベニシダ・シャガ・ツワブキ、耐陰性に優れているもの カンアオイ・フッキソウ・ヤブラン・リュウノヒゲ・シノラン・シュンラン・イカリソウ・ギボウシなどがあげられ、これらのなかから、修景要素、市場性などを考慮し、かつ路線内が単調にならないようなことも配慮して、日照が弱い区間（No.0～No.8）についてはミヤコザサ、比較的日照のある区間（No.20～No.28）についてはコクマザサ、日照があまりなく日中でもやや暗い区間（No.8～No.20）についてはツワブキ・ヤブラン・リュウノヒゲを選定しました。さらに、現地において造園業者とも打合せを行い、ミヤコザサは根を張るのが早く、2～3年もすれば腰位の高さになって倒れ、排水溝を覆って目隠しにもなるということで傾斜の急な部分には適していることが分かりました。そこで、道が平らな終点部付近はコグマザサを、中央部の急傾斜区間はミヤコザサを植えることに決定しました。

今回の整備で一番の問題が路面舗装です。文化庁からもなるべく手を入れず、現状に近い状態での整備を指示されました。しかし、整備区間は全体的に急勾配で、中間部では平均して約18%にもなっており、最も急な約150m区間は20～25%もあります。両側に迫る斜面からは周辺の山林を含む広い範囲の流域から雨水が流れ込むため、路面が水みちとなり、路面上を雨水が流れます。そのため昨年度の工事以前まで大きく浸食された溝があり、整備にあたっては、溝の埋め戻しとともに排水溝の設置や堅固な路面舗装が必要と考えられました。舗装整備を行わず、軽微な整備にとどめた場合は、梅雨や台風の時期には再び浸食が起り、路面は数年で多くの溝ができ、いずれ大きな溝になると考えられ、整備した排水溝などの施設も崩壊することが予想されます。このような現状から、舗装材として、自然景観に十分配慮した固化剤を用いて土を固める舗装材を用い、路面を浸食から防止することとしました。基本的には、急斜面での耐久性として、特に雨水が表面を大量に流れる際の路面の流失に対する耐久性と、急斜面における施工性が最も求められました。舗装といっても、前述したように文化庁からなるべく手を入れないようにとの指示があっていたので、できれば地元の土を用いた舗装ができないかと土系舗装材の選定を行いました。最も急な勾配の20%前後の坂の中央部では、重量のあるタンパなどを人力で操作するには非常に難しく、施工性が悪いと思われれます。その点、人力施工

による簡易な転圧で仕上げることが可能で、その他の舗装材では最小でもタンパなどの締固め機械が必要であるため、弾性樹脂系土舗装材（人力施工タイプ）のオートロードDR-Uが本計画地に最も適していると思われました。また、弾性樹脂による舗装は雨水による流失の恐れがなく、セメント系やアスファルト系はこの点で劣っています。また、現場の土を使用して、山道の再現を行うため、石混じりでの施工を可能とするために、4 cmの厚さとしました。

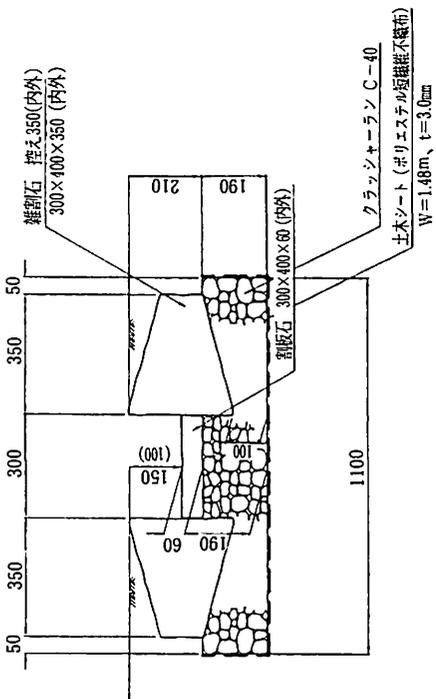
舗装整備を行う区間のうち勾配が急な部分は、路面の法線方向に雨水が流れることが予想されました。昨年、仮設で土嚢を横に並べていましたが、路面の水を排水溝に導く効果を発揮しました。そのため、この土嚢に変わる機能を丸太によって整備することにしました。排水溝を片側に設置している部分は片側に、両側にある部分は中央から両側に分けて丸太を設置しています。

また、当初は工事を終える最終年度に行う予定でしたサービス施設整備を、工事内容を変更したため急遽行うことにしました。計画区間の起・終点それぞれ一ヶ所に説明板と豊前街道を示す標識柱を、さらに国道443号から計画地までに道案内の道標板を五ヶ所設置しました。標識柱と道標板については「歴史の道整備」共通のものとし、説明板は起・終点の二ヶ所に設置するため内容の異なるものにしました。起点側は県内における豊前街道のルート地図と全体解説、終点側は町内のルートと要所の解説をイラストを交えてまとめています。

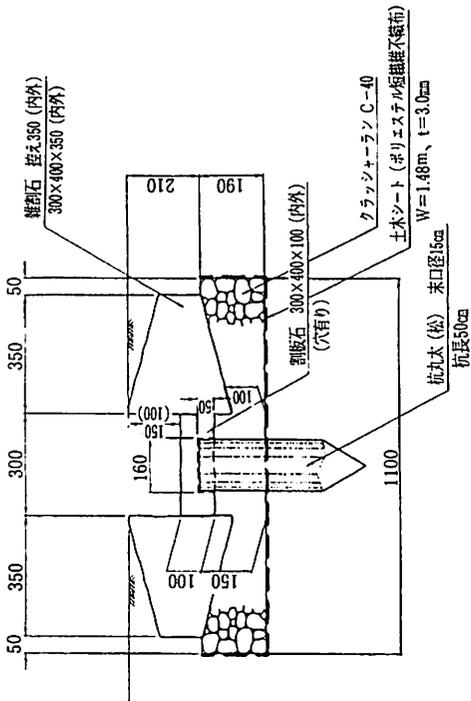


第12図 平成14年度事業横断図

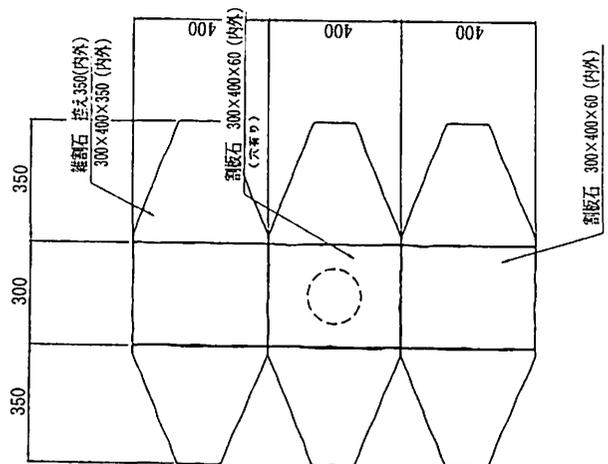
A-A'断面図



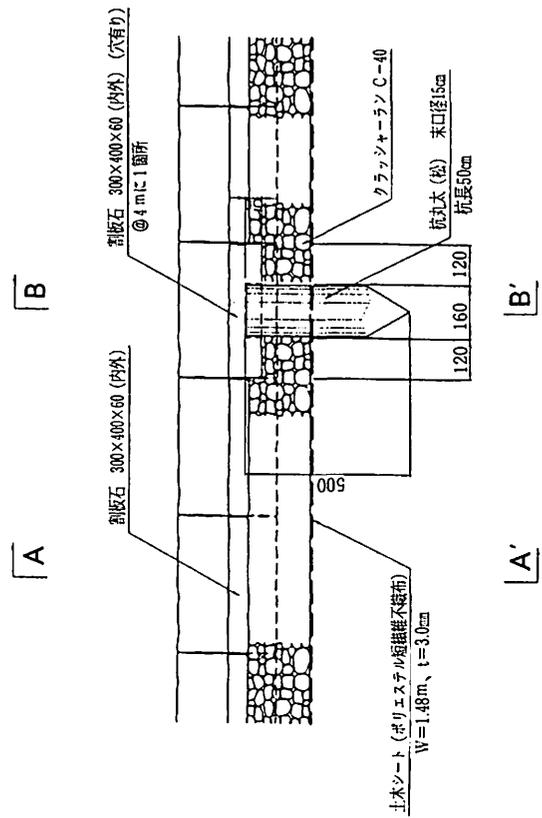
B-B'断面図

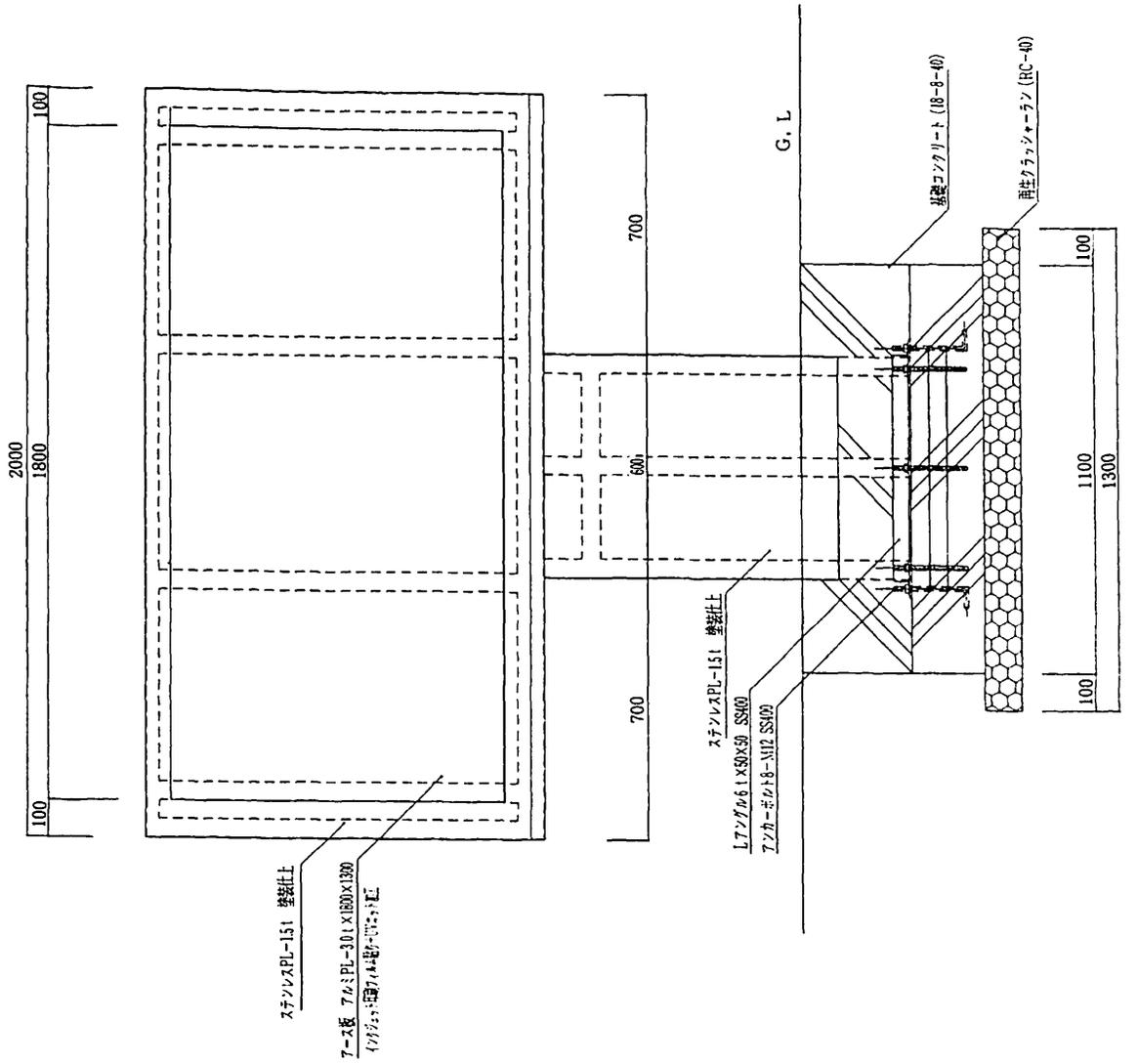


平面図

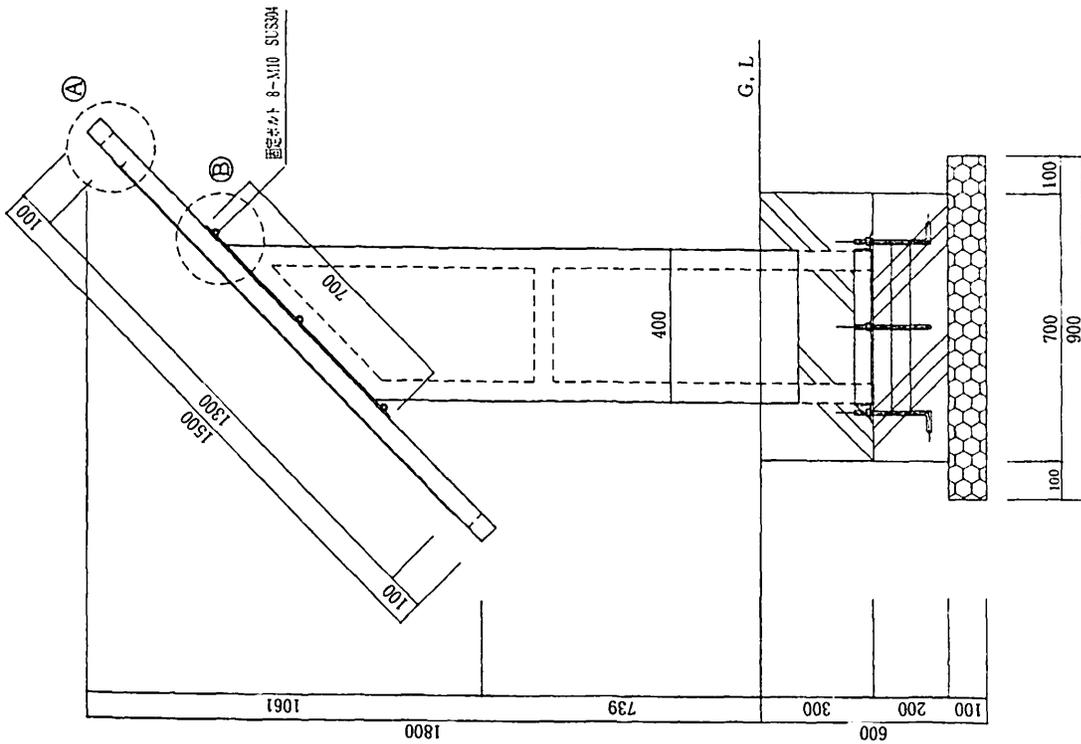


側面図





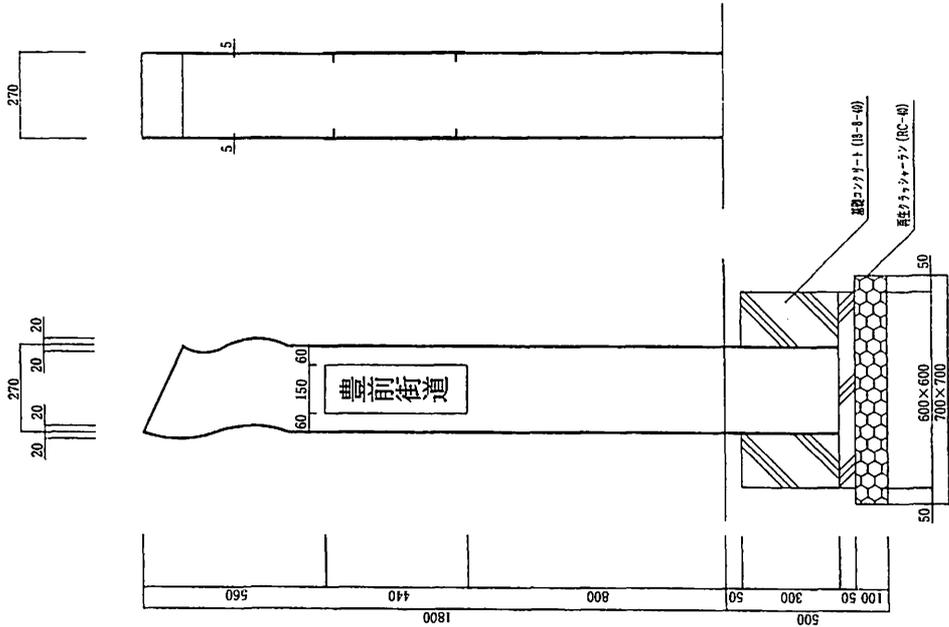
立面図



側面図

第14図 平成14年度サイン詳細図I (説明板)

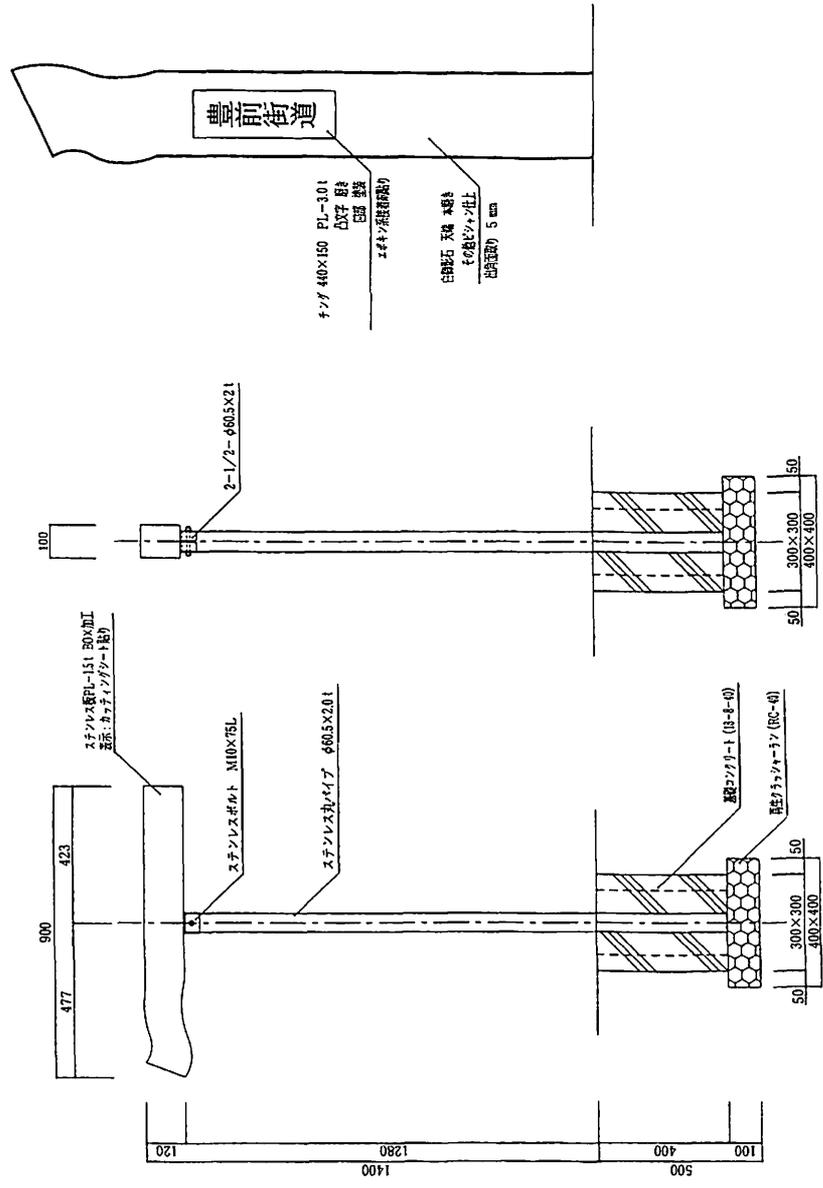
# 標識柱



側面図

立面図

# 道標板



側面図

立面図

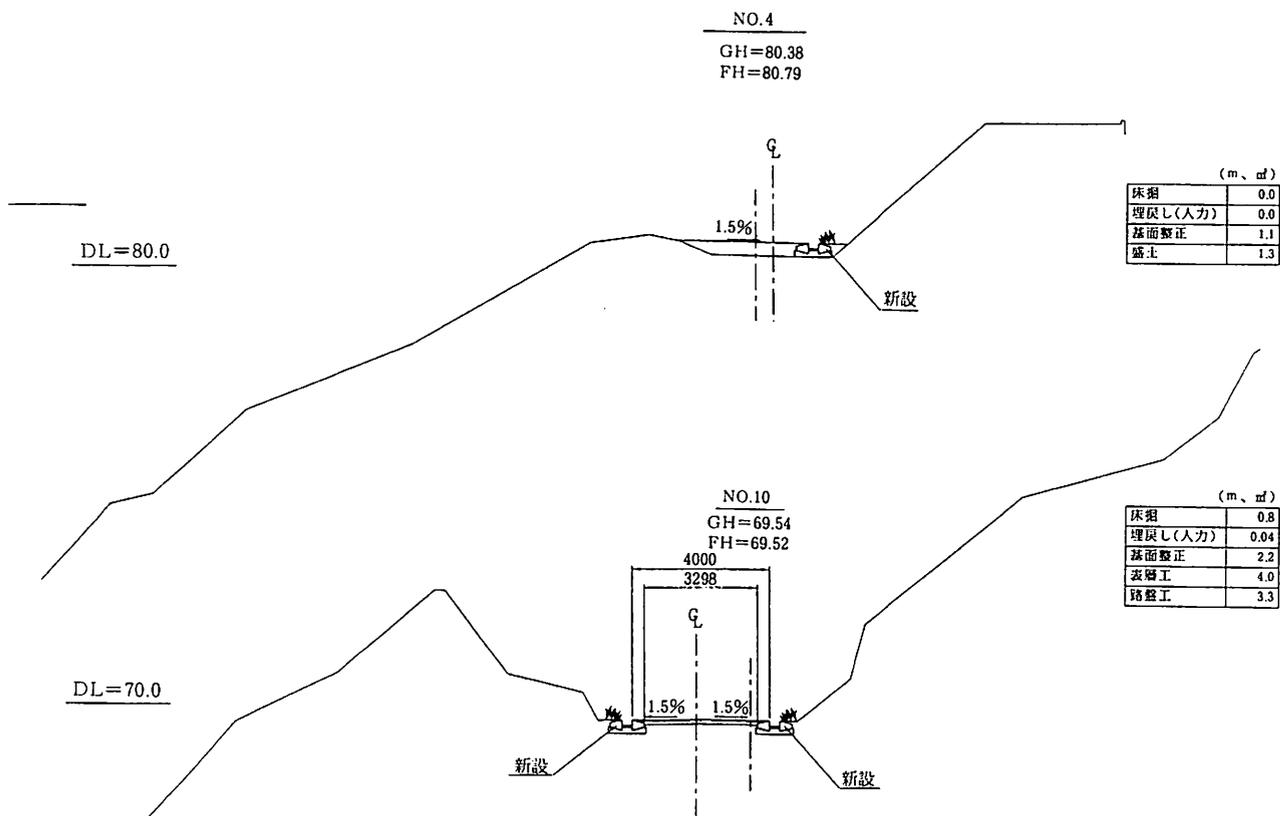
第15図 平成14年度サイン詳細図Ⅱ (標識柱・道標板)

## 第7節 平成15年度事業

残りの作業量を検討して、来年度までかかるかもしれないと思っていましたが、報告書印刷費も今年度に上げるようにと文化庁から指示がありましたので、今年度が最終年度ということになりました。残りの作業量は多くありますが、排水溝の設置・植栽・路面舗装と、昨年度までの整備と同じですので、実施設計期間は約二ヵ月で終り、整備に取り掛かりました。

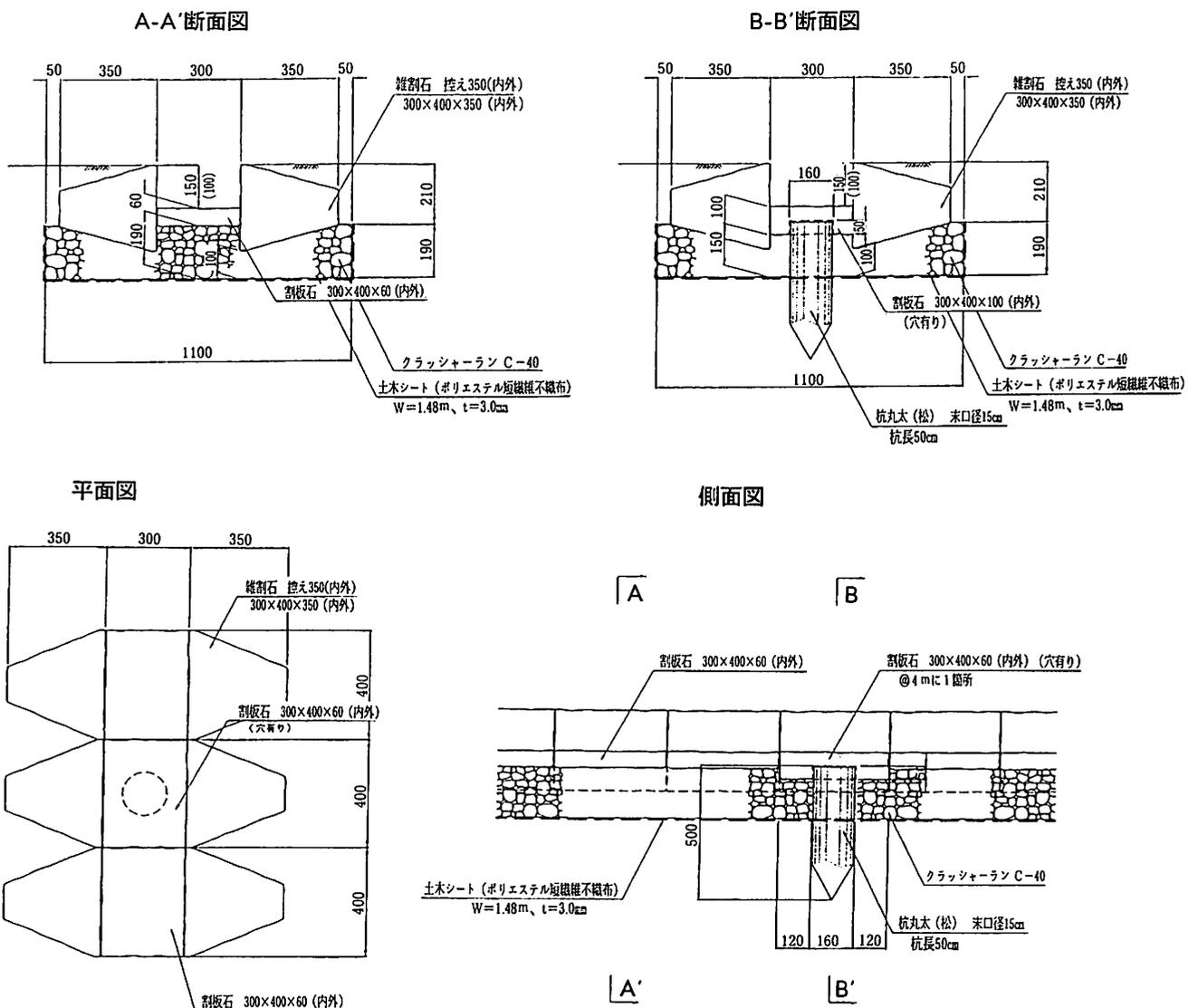
排水溝は、13・14年度で設置した幅30cm、深さ10～15cmの阿蘇溶結凝灰岩製で、No.6までは道の両側に設置しましたが、そこから起点までは北側斜面の法尻だけに設置しました。北側については、起点から終点までつながり、南側は急な斜面のみ設置し、途中1箇所に横断暗渠を設けて南側崖下に落としています。排水溝周辺には、昨年同様植栽を施しました。やや日照が弱い区間（No.5～No.14）には強度と見た目の良さを考慮してミヤコザサ、比較的日照のある区間（No.0～No.5）にはあまり大きくならないコグマザサを植えています。

また、路面舗装の舗装材については新たに数種を検討しましたが、他の舗装材は固くなって、歩く際に足に負担がかかりそうということ、昨年度途中まで舗装しているのので途中で工法を変更するとおかしくなるのではということで、やはりアートルードDR-Uが最適だという結論に達しました。

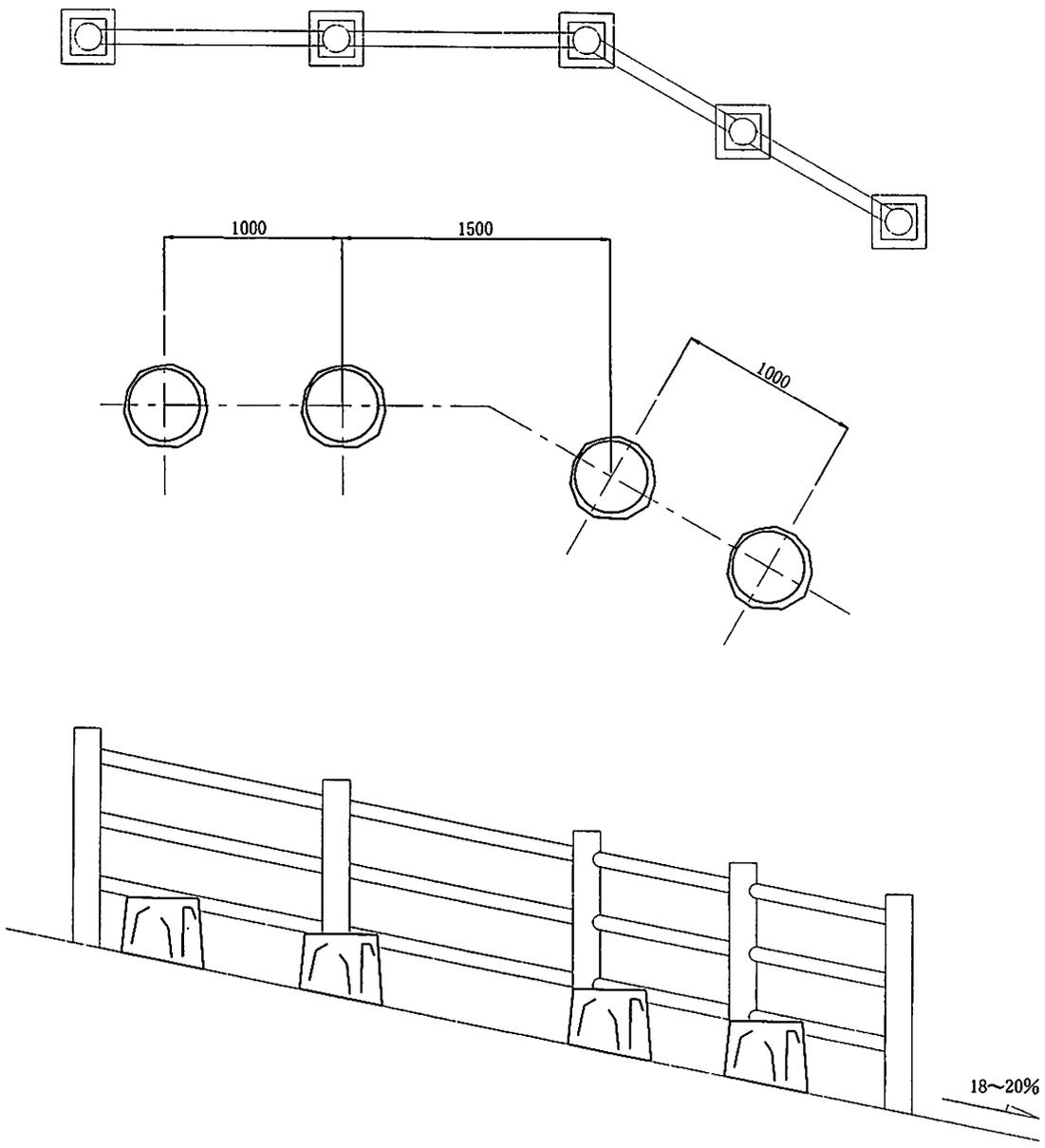


第16図 平成15年度事業横断面図

No.17と18の中間点あたりで、路は右側にカーブします。そのため、台地上に降った雨がこの路を流れることになり、20~25%という急傾斜を流れた水は、曲り切れずに約10mも落下して直立した崖面を形成し、非常に危険な状態となっています。そこで、危険防止のため路肩の平場に休憩施設と柵を設けることにしました。休憩施設は凝灰岩の塊の外面を粗削りしたものをスツールとして据えるだけにし、柵も防腐剤を浸透させた木柵としました。

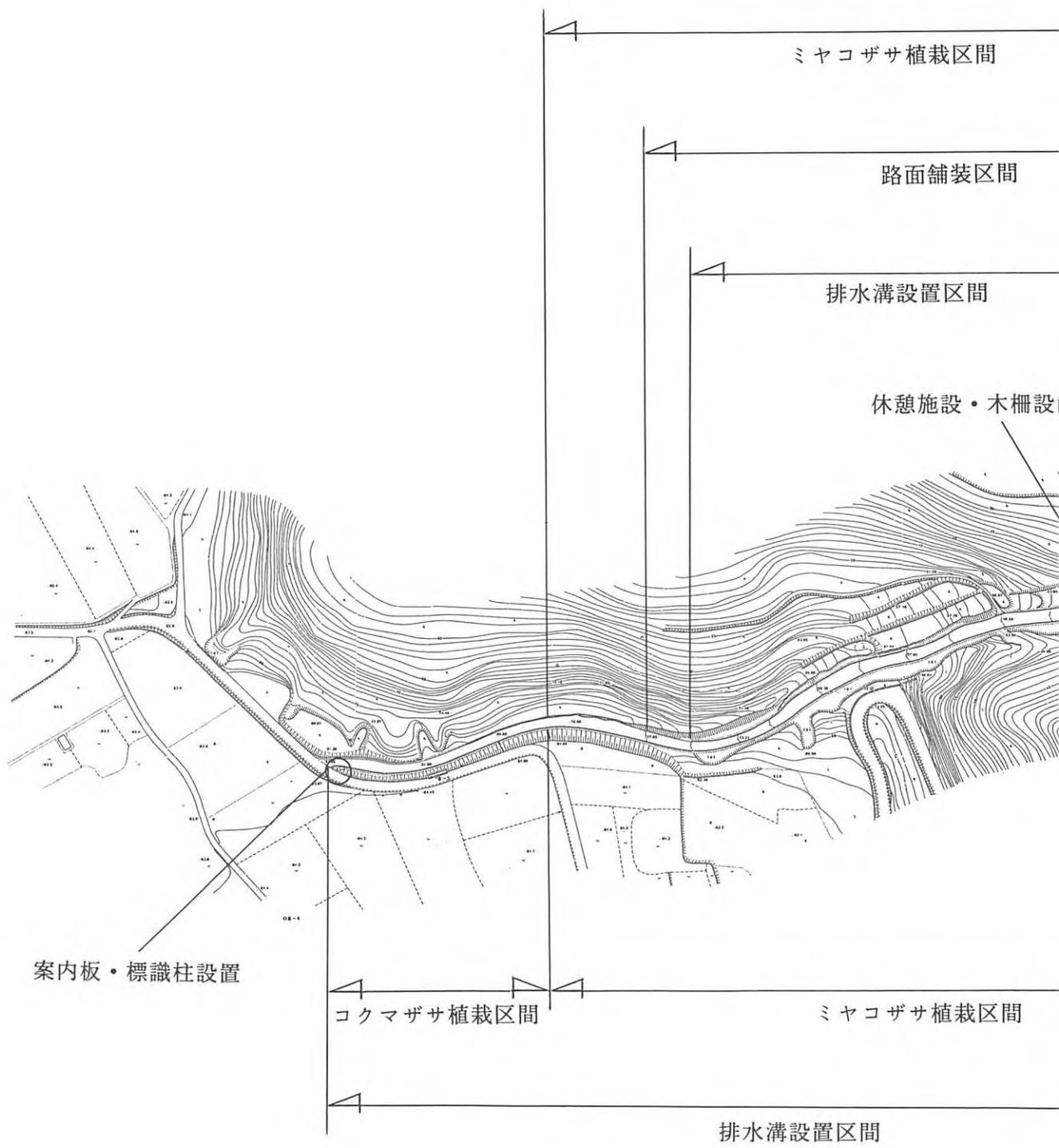


第17図 平成15年度雨水排水設備構造図

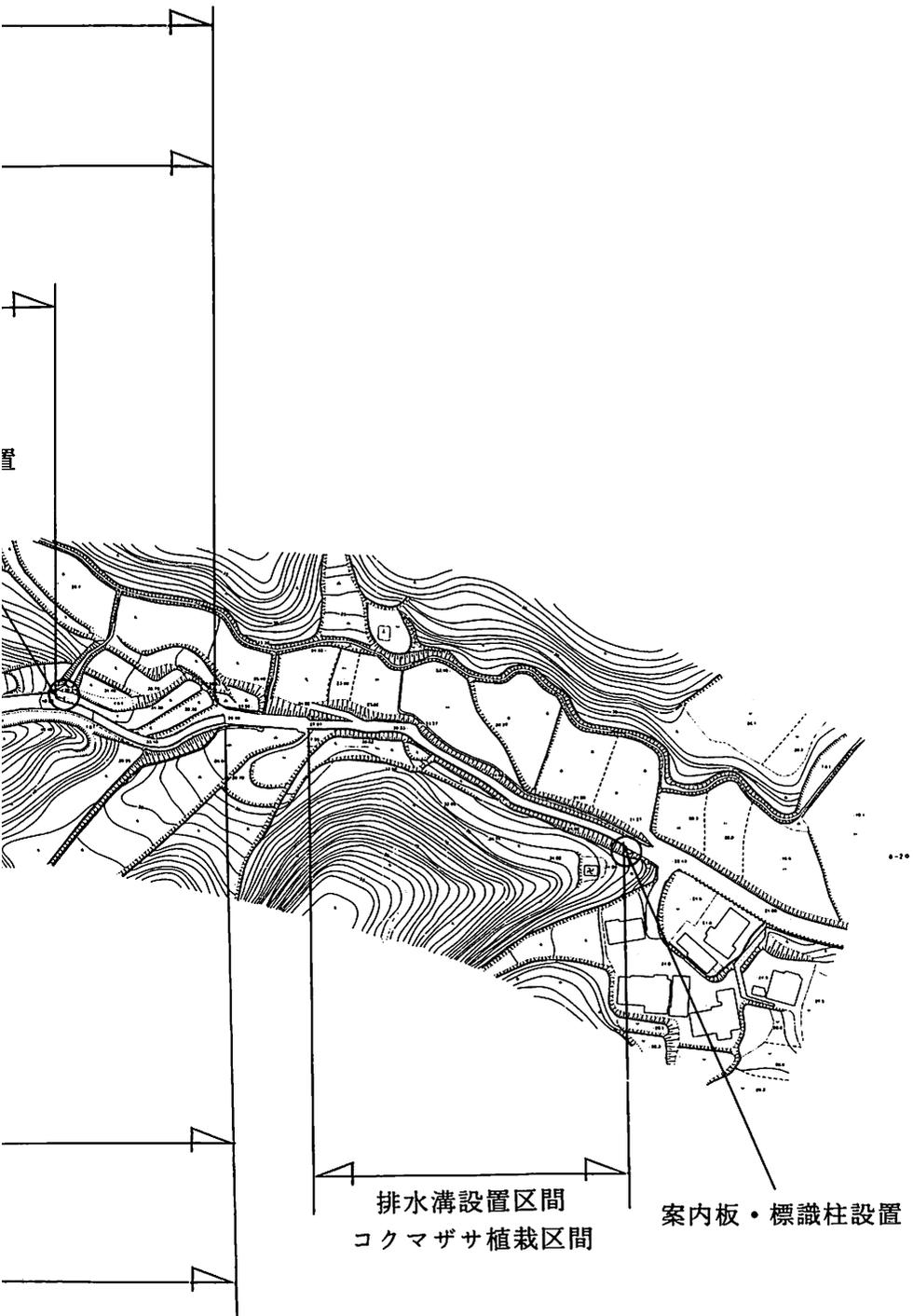


第18図 平成15年度休憩施設構造図





第20図 整備完了測量図



## 第Ⅳ章 結 語

本整備事業は平成12年に始まり、4年をかけてようやく完了しました。現地は、勾配20～25°と急傾斜地で台地上に降った雨水などが集まって水みちとなって、深いところでは約8mも抉られており、非常に危険な状態であったため、昭和40年には迂回路が作られ、現在ではほとんど人も通らない状況でした。壁面も非常にもろい阿蘇溶結凝灰岩のため、自然にボロボロと崩れ落ちており、荒れ果てていましたが、逆に人の手が入らず、うっそうとした当時の雰囲気が残っていました。

整備を始める前に試掘調査を実施して遺構の確認を行いました。阿蘇方面で整備を行っている豊後街道のように石畳などは確認できませんでしたので、事業を始めた当初は、路面舗装の方法をはじめ壁面の保護方法や排水溝の構造、植栽する樹種の選定など手さぐりの状態で行うことになりました。整備の基本として、なるべく地元の材料を使用するということではじめましたので、排水溝は阿蘇溶結凝灰岩の割石を使用し、間も漏水防止のため黒っぽく染めたシックイで目地詰めを行いました。植栽も周辺の生態系に近いものを中心に、見かけや根付きのことなども考慮してミヤコザサとコクマザサを選定しました。最も困難だったのが舗装材です。なるべく自然のままという指示もあっていましたので、一般的な公園などの遊歩道のように真砂土を固めたものでは違和感があるため、竹や木のチップ材を固めたものなど数種類の舗装材を現地で試行してみましたが、弾性樹脂系土舗装材（人工施工タイプ）（アートロードDR-U）が最適と判断しました。この舗装材は地元の土と樹脂とを混ぜたもので、4cm程度の小石を入れ、自然に近い感じを出しています。また、普通の舗装のようにガチガチに固いものではなく、少し弾力を持って足裏にやさしい感触があります。急勾配のため足を踏張って坂を下りますので、なるべく負担のかからないものということで選定しました。さらに、雨が降ると路面を流れた水が途中のカーブ部分から勢いよく下方に落ちており、かなり抉れた状況が見て取れます。その深さは約10mもあり、非常に危険な状況です。そのため、この箇所危険防止を目的として簡単な休憩所を設置することにしました。しかし、当初の設計は、どこにでもあるようなものはダメと却下され、新たな設計にはいりました。その際、あまり下部を痛めないようにとの注文がつかまりましたので、掘削は出来るだけ避けて阿蘇溶結凝灰岩を薄くして床に貼りつけ、その上に同岩製のベンチを置くことになりました。もちろん、崖際には簡単な柵を設けることにしました。こうして、「腹切坂」の整備は、地元のもので使えるものは出来るだけ使うということを前提に行い、平成12～15年度までの4年間で終了しました。

今後の課題としては、①法面の補強②落葉の処理③駐車場の確保など多く残しています。落葉があると趣は増しますが、かなりの量となり、滑る恐れもありますのでどれくらいの割合で除去するか判断が大事になります。しかし、何といても最大の課題は活用の方法と思われます。郡境の碑・ハゼ並木など多くの見所が周辺には残っていますが、町内だけでも約5.5kmもある「豊前街道」を歩くには交通手段の問題があります。これまでに数度企画しましたが、出発地点まで車で輸送して到着地点に車で迎えに行くか、出発地点に集合してもらい途中で街道から逸れてバスの通る道まで歩いてもらう方法を取りました。こちらで企画した場合は、この方法で対応できますが、個人で来られた場合の対応は難しいと思われます。多くの人々に「歴史の道」をじっくりと堪能してもらうためにも、より良い方策を考えていく必要を感じているところです。

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ぶぜんかいどう はらきりざか							
書名	豊前街道 「腹切坂」							
副書名	保存整備工事報告書							
巻次								
シリーズ名	三加和町文化財調査報告							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	黒田裕司							
編集機関	三加和町教育委員会							
所在地	〒861-0913 熊本県玉名郡三加和町大字板楠76 TEL 0968-34-3111 内線55							
発行年月日	西暦 2004年3月19日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	整備期間	整備面積 ㎡	整備原因
		市町村	遺跡番号					
ぶぜんかいどう 豊前街道	くまもとけんたまなぐん 熊本県玉名郡  みかわまちおおあざ 三加和町大字  いわあざいけいり 岩字池入	43366		33° 51' 36"	130° 38' 24"	20001120～ 20040227  (地形測量・ 基本計画策 定期間 19971222～ 19990319)	約580m 区間	平成8年に 「歴史の道」 百選に選ば れたのを機 に、整備し て後世に未 長く残すた め
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
豊前街道	歴史の道	近世					急勾配で、ほとんど 利用されることもな かったため、ひっそ りと当時の面影を残 している。	

# 写真図版



図版  
1



(1) No. 0 地点着工前 (平成15年度工事)



(2) No. 0 地点竣工 (平成15年度工事)

図  
版  
2



(1) No. 4～6 地点着工前（平成15年度工事）



(2) No. 4～6 地点竣工（平成15年度工事）

図版  
3



(1) No. 7～9 地点着工前（平成15年度工事）



(2) No. 7～9 地点竣工（平成15年度工事）

図版  
4



(1) No. 9～11地点着工前（平成14年度工事）



(2) No. 9～11地点竣工（平成14年度工事）

図版  
5



(1) No. 9～11地点着工前（平成15年度工事）



(2) No. 9～11地点竣工（平成15年度工事）

図  
版  
6



(1) No. 11~12地点着工前（平成13年度工事）



(2) No. 11~12地点竣工（平成13年度工事）



(1) No. 11~12地点着工前（平成14年度工事）



(2) No. 11~12地点竣工（平成14年度工

図  
版  
8



(1) No. 13~14地点着工前（平成13年度工事）



(2) No. 13~14地点竣工（平成13年度工事）

図版  
9



(1) No. 12～15地点着工前（平成14年度工事）



(2) No. 12～15地点竣工（平成14年度工事）

図  
版  
10



(1) No. 15~16地点着工前 (平成13年度工事)



(2) No. 15~16地点竣工 (平成13年度工事)



(1) No. 15~17地点着工前（平成14年度工事）



(2) No. 15~17地点竣工（平成14年度工事）

図  
版  
12



(1) No. 17~18地点着工前（平成13年度工事）



(2) No. 17~18地点竣工（平成13年度工事）



(1) No. 17~18地点着工前（平成14年度工事）



(2) No. 17~18地点竣工（平成14年度工事）

図  
版  
14



(1) No. 23~21地点着工前（平成12年度工事）



(2) No. 23~21地点竣工（平成12年度工事）



(1) No. 26～25地点着工前（平成12年度工事）



(2) No. 26～25地点竣工（平成12年度工事）

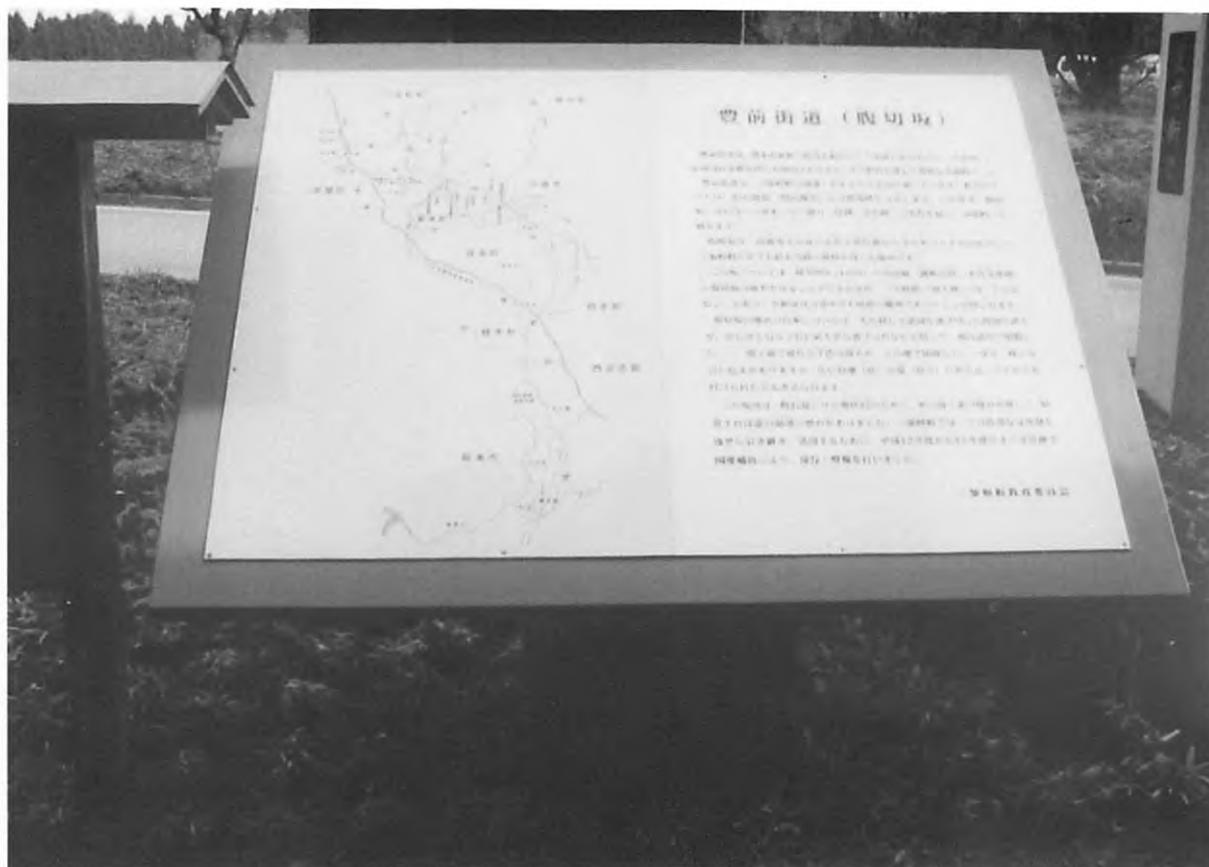
図  
版  
16



(1) No. 28~27地点着工前 (平成12年度工事)



(2) No. 28~27地点竣工 (平成12年度工事)



(1) 説明板 I (平成14年度工事)



(2) 説明板 II (平成14年度工事)

図  
版  
18



(1) 標識柱 (平成14年度工事)



(2) 道標板 (平成14年度工事)



休憩施設・木柵（平成15年度工事）

三加和町文化財調査報告 第20集

## 豊前街道「腹切坂」

～保存整備工事報告書～

2004年3月19日

発行 三加和町教育委員会  
〒861-0913  
熊本県玉名郡三加和町板楠76

印刷 熊本県印刷センター協業組合  
〒862-8011  
熊本市鹿埴瀬町496-1